

Google for Education の
構築運用ガイドブック
(GIGA スクール構想対応)

第 2.0 版
2021 年 6 月

グーグル合同会社
Google for Education

はじめに

グローバル社会の到来に伴い、世界水準での教育の実現が求められる時代であり、学校における学習用端末の整備は急務となっています。令和元年 12 月に示されました「GIGA スクール構想」は、こうした時代の要請に応えるものであるとともに、新学習指導要領下で取り組む「主体的・対話的で深い学び」を、より効率的・効果的に行える教育環境を整えることができます。

またその一方で、2020 年 3 月 2 日から新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校により、全国の子供たちは長期に渡り家庭での学習を余儀なくされました。こうした状況で様々な学習支援が取り込まれる中、学習用端末は「学びを止めない」最適な学習支援ツールであると、子供たちや保護者、先生方が実感されております。まさに学習用端末がこれからの教育活動には無くてはならない必須アイテムであり、「GIGA スクール構想」が、こうした教育環境を実現します。

Google for Education では、各自治体様が取り組まれている「GIGA スクール構想」をご支援させていただくための教育機関向けソリューションとして「Google GIGA School Package」をパートナー企業と協力し、ご提供しています。概要は下記のとおりです。「Google GIGA School Package」のご提供をとおして、各自治体様の更なる教育の充実・発展をご支援させていただきます。

「Google GIGA School Package」は主に 5 つで構成されています。

1. 1人1台の学習端末に適した世界基準の Chromebook
2. 全世界 1.4 億人以上の教職員・児童生徒が利用する教育プラットフォーム Google Workspace for Education
3. 大規模な端末展開用に専用設計されたクラウドのアカウント管理
4. 全世界 1.4 億人の Google Workspace for Education のユーザーの活用実績を元にした完全無償のトレーニング
5. 「教育情報セキュリティに関するガイドライン」準拠

本書では「大規模な端末展開用に専用設計されたクラウドのアカウント管理」に関して詳細に説明していきます。従来よりはるかに簡単な導入・管理の実現可能の一助になることを願っております。

目次

1	GIGA スクール構想とは	P6
1-1	Google GIGA School Package	P8
1-2	Chromebook が最適な理由	P9
1-3	Google Workspace for Education でできること	P11
2	構築・運用の全体概要	P12
3	Google Workspace for Education の構築	P14
3-1	カスタムドメインの準備	P17
3-2	申し込み	P18
3-3	ドメイン所有権の確認	P22
3-4	審査	P23
3-5	組織部門(OU)の作成	P24
3-5-1	組織部門(OU)とは	P24
3-5-2	組織部門の作成	P26
3-6	ユーザー アカウントの作成	P28
3-6-1	命名規則	P28
3-6-2	作成数の上限	P29
3-6-3	CSV 一括登録	P31
3-6-4	その他の登録	P32

目次

3	Google Workspace for Education の構築	
3-7	サービスの設定 (Gmail など)	P33
3-7-1	Google Workspace for Education コアサービス一覧	P33
3-7-2	サービスの設定	P34
3-8	管理者の設定	P36
3-8-1	管理者の役割とは	P36
3-8-2	管理者の役割の設定	P37
3-9	Google グループの設定 (任意)	P39
3-9-1	Google グループとは	P39
3-9-2	Google グループ作成 (管理コンソール)	P40
3-9-3	Google グループ作成 (Google Groups)	P43
3-9-4	Google グループ作成 (GAS やアドオンでの一括作成)	P45
4	Chromebook の構築	P46
4-1	組織部門の作成	P47
4-2	端末の登録 (= キットティング)	P48
4-3	端末情報の更新 (アセットID など)	P49
4-4	ネットワークの設定 (Chrome Education Upgrade 必須)	P50
4-5	ユーザーとブラウザの設定	P51
4-6	端末の設定 (Chrome Education Upgrade 必須)	P52

目次

5	運用	P53
5-1	端末の運用	P54
5-1-1	OS の更新	P54
5-1-2	故障時の対応	P56
5-1-3	紛失時の対応	P57
5-2	サポート	P59
5-3	アカウント関連	P60
5-3-1	パスワードリセット	P60
5-3-2	データ移行(卒業時)	P61
5-3-3	アカウント停止(卒業時)	P62
5-3-4	アカウント削除(卒業時)	P63
6	参考	P64
6-1	ユーザーとブラウザの設定項目一覧	P65
6-2	端末の設定項目一覧	P86
6-3	Google Workspace コアサービス設定例	P92
	Appendix	P96

1

GIGA スクール構想とは

1

1-1. Google GIGA School Package

2

1-2. Chromebook が最適な理由

3

1-3. Google Workspace for Education で
できること

GIGA スクール構想とは

GIGA スクール構想は、子どもたち 1 人 1 人に個別最適化され、創造性を育める教育 ICT 環境の実現に向けて、「端末」「ネットワーク」「クラウド」の 3 つを整備することで、次世代の学校・教育現場を目指すとともに、教師の校務の効率化を図ることでより子どもたちへの時間をかけることを目的としています。



GIGA スクール構想においては、「学習者用コンピュータの標準仕様書」が提示されており、「新時代の学びを支える先端技術推進方策」の考え方に基づき、学習者用コンピュータのモデル仕様を、3 種の OS について提示しています。標準仕様書の記載内容を参考にしながら、各自治体が必要な内容を取捨選択し、調達仕様書を作成することが求められます。

以下は、Chrome OS における標準仕様です。

仕様	
OS	Google Chrome OS
CPU	Intel Celeron 同等以上 2016 年 8 月以降に製品化されたもの
ストレージ	32GB 以上
メモリ	4GB 以上
画面	9~14 インチ（可能であれば 11~13 インチが望ましい） タッチパネル対応
無線	IEEE 802. 11 a/b/g/n/ac 以上
LTE 通信	LTE 通信に対応していること （本体内蔵または外付けドングルを使用）
キーボード	Bluetooth 接続でない日本語 JIS キーボード
カメラ機能	インカメラ・アウトカメラ
音声接続端子	マイク・ヘッドフォン端子×1 以上
外部接続端子	USB3. 0 以上×1 以上
バッテリー	8 時間以上
重さ	1. 5kg 未満
その他	本端末を学習者用コンピュータとして適切に運用するために最低限必要な以下設定について、ネットワークを介して行うための端末管理ツール（設定作業は含まない） <ul style="list-style-type: none"> ・端末にログイン可能なユーザに関する制御設定 ・端末が利用するアプリ、拡張機能等の配信設定 ・接続先ネットワークの制御 ・紛失・盗難時の制御設定

1-1. Google GIGA School Package

Google for Education は、GIGA スクール構想に対応した Google GIGA School Package を提供することで 1 人 1 台の整備の実現に向けた世界標準の学びの環境を提案します。

The diagram illustrates the Google GIGA School Package as a combination of three main components:

- 教師と生徒のための共有可能な端末 (Chromebook):**
 - 6社・14機種 (6/15現在)
 - Chrome Education Upgrade (Google 純正 MDM デバイスライセンス)
* 新規デバイス購入時には再購入が必要となります
 - セキュリティソフトなど不要
- 「新しい学び」と「働き方改革」を実現 (Google Workspace for Education):**
 - 教育機関は**完全無償**
 - ストレージ容量無制限
 - アカウント管理機能標準装備
 - クラウド型の教育プラットフォーム
 - クラス管理・協働編集・コミュニケーション
- プロによる導入前後のサポート (Kickstart Program):**
 - 導入前、導入後の**現地研修を無償提供**
 - ① 「一人一台」利活用促進のための研修パッケージ
 - ② 「一人一台」を効率的に導入検討、運用管理するための研修パッケージ
 - オンライントレーニングを**無料公開**
 - 認定教育者向けプログラム
 - 地域の Google 教育者グループ

Chromebook については「1-2. Chromebook が最適な理由」、Google Workspace for Education については「1-3. Google Workspace for Education でできること」にて詳細を説明しています。Kickstart Program では、管理者向け・教員向けに無償で以下の研修を提供します。

管理者向け

参加者: 教育委員会・教育センター、学校にて管理を担当する情報責任者、外部委託 ICT 支援員など

目的: 効率的な、ユーザアカウントの作成や、組織階層検討方法、運用方法や端末の管理権限や管理方法への理解を深める

場所: 指定された場所
実施時間数: 要相談

内容

- 組織・ユーザーの種類と作成方法
- 端末管理・ユーザー管理の方法
- 利用状況の把握方法
- 運用に役立つ各種機能
- 組織の設計・設定
- グループの作成
- 権限 (サポート、パスワード) の付与

教員向け

参加者: 教育委員会・教育センター、学校にて研修を担当する研修担当者、外部委託 ICT 支援員など (各校 1~2 名の推進リーダー)

目的: 持続可能で効果的な活用促進のために各校の推進リーダーを育成する

場所: 指定された場所
実施時間数: 要相談

内容

- Google Workspace for Education の各種機能紹介
- Classroom を用いた生徒への課題や資料の配布方法
- 回答結果の回収分析を自動化したアンケートの活用方法
- 同時編集を活用した協働学習
- その他、業務や授業における活用の紹介

1-2. Chromebook が最適な理由

Chromebook は、教育機関で利用するために専用開発された端末です。ここでは、Chromebook を教育期間で利用することが最適な理由について説明します。

1. 教育機関向けに設計・開発されたパソコンであること

起動が速く、バッテリーは長持ち

起動は10秒以内。長時間駆動バッテリーを備えているので、1回の充電で終日利用できます。メモリ不足による速度低下は一切なく、操作は快適です。

安心のセキュリティ環境

最新のOSに自動更新されるため、セキュリティは常に万全です。また、端末にデータを残さないため、情報漏洩の心配はありません。

数字でみるChromebook

教育用パソコンとしての
利用端末数
4,000万台

パソコン管理に
関わる時間
59%削減*

他のパソコンと比べた
3年間のトータルコスト
57%削減*

*2020 IDC Whitepaper

acer

ASUS

DELL

hp

Lenovo Education

Orchestrating a brighter world
NEC



生徒同士で端末を簡単に共有

Googleアカウントにログインするだけで、個人の設定や拡張機能のすべてが自動的に適用されるので、共有パソコンとして最適です。



一元的な設定・管理

Chrome Education Upgradeの管理コンソールを使用すれば、1台の端末から同じドメインのすべての端末を遠隔で管理、設定できます。

2. 状況に応じてモードを使い分けながら利用可能であること



デスクトップモード



タブレットモード

- ✓ デスクトップモードとタブレットモードを切り替えることで、使い慣れた画面で使うことも可能
- ✓ タブレットモードでは音声入力や手書き入力も

1-2. Chromebook が最適な理由

3. 手間いらずの全く新しいOSを搭載していること

従来PCの課題

1. 更新作業の負荷やコストが膨大
2. 更新時のユーザの待ち時間
3. MDMによる遠隔更新は最後まで完了しない
4. 深夜等の一括更新はネットワーク負荷が膨大
(キャッシュサーバや帯域増強が必要、
LTE更新不可)
5. OS更新によりアプリが正常に動作しなくなる

Chrome OSが生み出した解決策

1. 自動更新でユーザ**負荷はゼロ**
2. **再起動するだけ**で完了
3. **作業不要で更新完了**
4. 学校毎の帯域に合わせて**分散更新**
サイズは**従来PCの10分の1**程度
LTEでも更新可能
5. 特定のバージョンに固定可能
手動に切り替え可能

4. 従来のPCの脆弱性を解決していること

ウイルス対策の自動更新

ウイルス対策が標準装備、アップデートも自動、常に最新

サンドボックス

開いたインターネットとアプリケーションは「サンドボックス」という隔離環境で動作、ウイルスに感染したページを開いても他の影響なし

確認付きブート

起動都度、セルフチェックが行われ、システム改ざんや破損を自動検出、自己修復。常に健全なOSのみ立ち上げる。

データの暗号化

すべての取り扱いデータは暗号化、不正アクセスも安心

復元モード

問題が生じた場合、復元モードですぐに初期状態や良好な状態に復元



1-3. Google Workspace for Education でできること

Google Workspace for Education では、学校現場で利用可能な様々な機能があります。ここでは Google Workspace for Education にて**無償**で実施可能な主な項目を説明します。

	ツール名	該当ツール
学習用ツール	ワープロソフト	Google ドキュメント
	表計算ソフト	Google スプレッドシート
	プレゼンテーションソフト	Google スライド
	写真・動画撮影	端末搭載のインカメラ / アウトカメラ
	地図作成ソフト	Google マイマップ
	ファイル共有機能	Google ドライブ
	アンケート機能	Google フォーム
	電子メール	Gmail
	チャット機能	Google Chat
	ビデオ通話機能	Google Meet
管理・セキュリティ	インターネットブラウザ	Chrome ブラウザ
	各種設定・管理	管理コンソール
	端末管理	管理コンソール ※ Chrome Education Upgrade の契約要 ※ 基本モデルに含まれます。
	データの記録保持・アーカイブ	Google Vault
その他	ウイルス対策	Chrome OS に標準搭載
	データ分析	Google アナリティクス

2

構築・運用の全体概要

2. 構築・運用の全体概要

Google for Education は、専門スキルを必要とすることがなく、非常に簡単に導入していただくことが可能です。構築・運用に必要なツールは **管理コンソール(admin.google.com)のみ**。Chromebook 端末・Google Workspace for Education の導入までの手順は以下の 3 ステップで完了します。

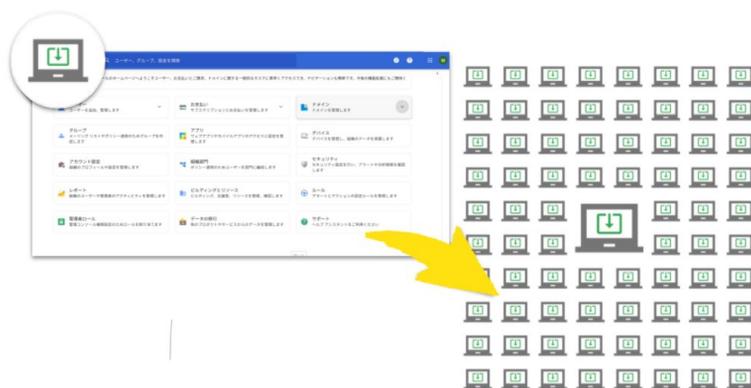
Step 1: アカウント Google Workspace for Education



Step 2: デバイス chromebook



また、管理コンソール上で実施可能な Google for Education のあらゆる設定は、クラウド上から遠隔で一括で設定・適用させることが可能です。



3

Google Workspace for Education の構築

1

3-1. カスタムドメインの準備

2

3-2. 申し込み

3

3-3. 所有権の確認

4

3-4. 審査

5

3-5. 組織部門(OU)の作成

- 3-5-1. 組織部門(OU)とは
- 3-5-2. 組織部門の作成

3

Google Workspace for Education の構築

6

3-6. ユーザー アカウントの作成

- 3-6-1. 命名規則
- 3-6-2. 作成数の上限
- 3-6-3. CSV 一括登録
- 3-6-4. その他の登録
- 3-6-5. 必要なデータの収集

7

3-7. サービスの設定 (Gmail など)

- 3-7-1. Google Workspace for Education コアサービス一覧
- 3-7-2. サービスの設定

8

3-8. 管理者の設定

- 3-8-1. 管理者の役割とは
- 3-8-2. 管理者の役割の設定

9

3-9. Google グループの設定 (任意)

- 3-9-1. Google グループとは
- 3-9-2. グループ作成 (管理コンソール)
- 3-9-3. グループ作成 (Google Groups)
- 3-9-4. グループ作成 (GAS やアドオンでの一括作成)

Google Workspace for Education 利用開始までの手順

Google Workspace for Education の申し込みから利用開始までは、主に以下の手順となります。

1 カスタムドメインの準備

Google for Education ドメインの申請の際には、[独自ドメイン](#)をご準備いただく必要があります。ドメインは既存でご利用のもの、新規で取得いただくもの のどちらでも申請可能です。新規で取得いただく場合は、Google からの購入、ドメイン プロバイダからの購入を選択いただけます。

2 Google Workspace for Education 申し込み

Google Workspace for Education は、Web 上から簡単に お申し込みいただけます。

3 ドメインの所有権確認

Google Workspace for Education の利用にあたり、申請に利用したドメインが皆様のものであることを証明する必要があります。

4 Google Workspace for Education 審査

Google Workspace for Education の利用にあたり、所定の審査があります。申請内容から以下を確認できない場合、学校認定証などの証明書の提示を求められることがあります。

5 利用開始

3-1. カスタムドメインの準備

Google Workspace for Education の申し込みには、「ドメイン」を準備していただく必要があります。ドメインとは、メールアドレスの @ マークの後や、ウェブアドレスの www. の後に続く一意の名前です。また、ドメインを管理するサーバーを DNS サーバと呼びます。

Google Workspace for Education お申し込みの際にドメインをご登録いただく目的は、教育委員会専用の Google Workspace for Education の環境 (Google Workspace for Education アカウント) を作成するためです。最初に登録いただくドメイン

(「プライマリドメイン」と呼びます) で専用環境が作成されるため、最初から本番を想定したドメインを登録いただくことを推奨いたします。

✓ドメインの種類について

申請いただくドメインに指定はございませんが、「.ed.jp」は初等中等教育機関および 18 歳未満を対象とした教育機関、「.ac.jp」は高等教育機関および学校法人などがそれぞれ登録できる固有のドメインです。

このため教育機関は .ed.jp、.ac.jp ドメインで Google Workspace for Education を利用いただくことを推奨していますが、.jp などの汎用的なドメインでもお申込みは可能です。

なお、「.lg.jp」は地方公共団体と、それらの組織が行う行政サービスが登録・利用する固有のドメインですのため、行政職員を示すはずの .lg.jp を児童生徒が使用することは推奨いたしません。

✓ドメインの購入について

.jp、.com、.net などのドメインは、Google Workspace for Education お申し込みの途中で、クレジットカード決済にて購入いただくことも可能ですが、.ed.jp、.ac.jp ドメインや .jp、.co.jp ドメインなどは例えば以下のようなドメイン登録サービスから購入いただく必要があります。各サービスのページで料金も確認できます。

- ・JPDirect: <https://jpdirect.jp/domain/edjp.html>
- ・お名前.com: <https://www.onamae.com/service/>
- ・さくらのドメイン: <https://domain.sakura.ad.jp/jpdomain/edjp/>

3-2. 申し込み

Google Workspace for Education は、Web 上から簡単に申請することが可能です。自治体の場合は、教育委員会ごとに申請していただくことになります。



1 Google Workspace for Education (<https://goo.gl/xrvzJ9>)にアクセスします。



2 教育委員会名(学校名)を入力

貴校・貴所で提供している教育の種類を選択してください。



3 ウェブサイトを入力

xxx.schoolname.com などの URL を入力し、生徒と教職員の数を選択してください。



4 国と電話番号を入力

貴校の所在地(国)と電話番号を入力してください。

3-2. 申し込み

組織の住所を入力

郵便番号 都道府県

町村、番地

番地 2

[次へ](#)

5 住所を入力

貴校の郵便番号、都道府県、所在地詳細を入力します。

ご連絡先をお知らせください。

Googleからの連絡を受け取れるよう、定期的に確認するメールアドレスを入力してください。

姓

名

現在のメールアドレス

[次へ](#)

6 メールアドレスを入力

受信できるメールアドレスを入力します。

貴校・貴所のドメイン所有に関する情報

学校用のメールと Google Workspace for Education アカウントを設定するには、example.edu のようなドメインが必要です。

[使用できるドメインがある](#) [ドメインを購入](#)

7 ドメイン所有情報

[使用できるドメインがある]
既にご準備されているドメインで Google Workspace for Education をご利用する場合

[ドメインを購入]
新規でドメインを購入し、 Google Workspace for Education をご利用する場合

貴校・貴所のドメイン名を入力

貴校・貴所がこのドメインの所有者かどうか確認する方法を逃さないでください。

ご利用のドメイン名

例: example.edu

[次へ](#)

8 ドメイン名を入力

既にお持ちのドメイン名を入力します。

3-2. 申し込み



9 ドメイン名を確認

使用するドメイン名を確認してください。



10 ログイン情報を入力

管理者のメールアドレスとパスワードを作成します。



11 お知らせ受信設定

Google より様々なお知らせなどの受け取りにご協力いただける場合は「OK」をクリックします。



12 Google Workspace for Education に関する学校同意書

内容をご確認の上、「同意して続行」をクリックします。

3-2. 申し込み



13 Google Workspace for Education 申し込み完了

「私はロボットではありません」にチェックを入れ、申し込みを完了します。

手続きを完了すると、Google Workspace for Education を 14 日間試用できるようになります（試用期間中は 10 ユーザーまでの制限があります）。Google Workspace for Education を引き続きご利用になる場合は、できるだけ早く次の手順を行っていただく必要があります。

1. まず、ドメインの所有権を証明します。これによって Google サービスのドメインを他のユーザーが許可なく使用していないことが確認されます。（22 ページ参照）
2. Education へのアップグレードのお申し込みが自動的に送信されます。Google Cloud サポートチーム（esupport@google.com）からのメールをご確認のうえ、ご返信ください。

3-3. ドメインの所有権確認

Google Workspace for Education の利用にあたり、申請に使用したドメインの「所有権確認」を実施する必要があります。これは、第三者が無断でそのドメインを Google サービスに利用するのを防ぐために必要な作業となります。ドメインの所有権の証明が完了すると、Google Workspace サービスの設定を開始できます。所有権確認作業は、試用期間の開始後 **9 日以内** に実施する必要があります。

ドメインの所有権確認は、以下の方法で実施してください。

Step 1: 管理コンソールでの作業

1. 管理コンソール (admin.google.com) へアクセスします。
2. 画面上部に表示されている「ドメインの所有権を選択する」を選択して、「次へ」をクリックします。
3. 「ドメインの所有権を確認してください」のポップアップが表示されたら、ドメイン発行元の選択肢から「その他」を選択します。
4. 「確認を開始」をクリックします。
5. 「おすすめの方法」の項目から、「ドメイン レジストラまたはプロバイダを選択」で「その他」を選択し「確認」をクリックします。
6. TXT レコードが表示されますので、これをコピー等で保存します。
※ ここでは、左下の「確認」はまだクリックしないでください。

Step2: ドメイン管理画面での作業

1. ブラウザの新しいタブを開きます。
2. ご利用のドメインホストでの [手順を確認](#) します。
※ ご利用のドメインホストが記載されていない場合は、[一般的な手順](#) をご確認ください。
3. ドメインホストへログインし、上記手順に沿って作業を進めます。

Step 3: 管理コンソールでの作業

1. Step 1: 6 の画面に戻り、「確認」をクリックします。
2. 「所有権が確認されました」と表示が出たら完了です。

3-4. 審査

幼稚園、小中高校、高等教育機関は、次の条件を満たしている必要があります。なお、利用にあたっては所定の利用資格の審査があり、申請内容から以下を確認できない場合、学校認定証などの証明書の提示を求められることがあります。

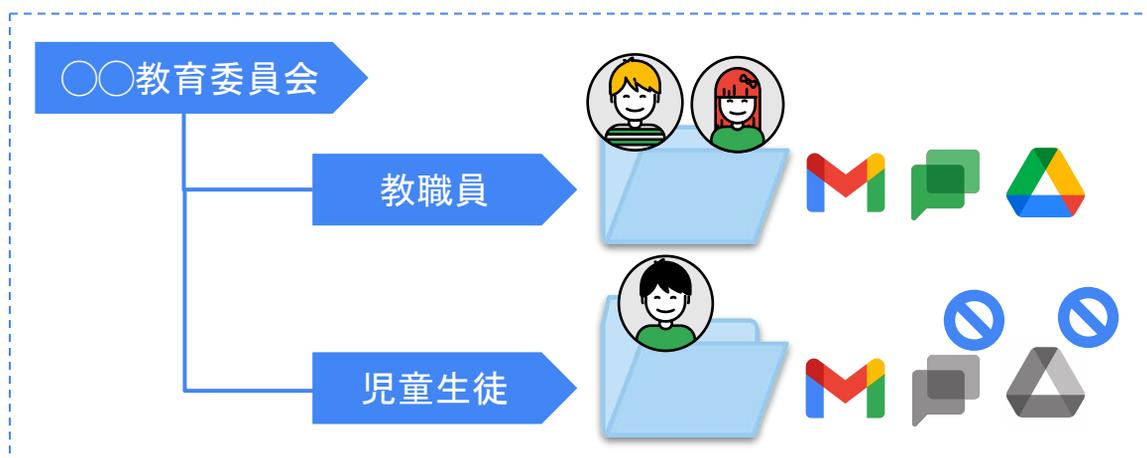
- 非営利の教育機関であると認知されている。
- 初等、中等、高等以降の各レベルで、国内的または国際的に承認された認定資格を提供する、政府公認校として正式な認可を受けた教育機関である。

3-5. 組織部門(OU)の作成

3-5-1. 組織部門(OU)とは

Google Workspace for Education アカウントの初期状態では、ベースとなる最上位の組織(OU)が1つ用意されています。この最上位の組織の配下に、用途に合わせて組織の階層構造を作成します。アカウント内のすべてのユーザー及び端末が、いずれかの組織部門(OU)に所属します。

現在、合計で最大 40,000 個の組織部門を作成することができ、各組織部門の直下には最大 5,000 個のサブ組織部門を作成することができます。この上限を超えることのない最適な階層を検討してください。



組織部門は、主に以下の用途で利用します。

1. Google Workspace for Education の各サービスの有効化 / 無効化の適用
2. ユーザー設定の適用
3. 端末の設定の適用

また、Google Workspace for Education のよくある組織部門(OU)構成は、次の2パターンです。(詳細は次ページ)

1. 教育委員会の場合 (役割ベース)

教育委員会の ICT 管理者が、ポリシー設定およびユーザーの追加・削除作業などを一括して行う場合

2. 教育委員会の場合 (組織ベース)

各学校に、一部のポリシー設定およびユーザーの追加・削除作業などを委任する場合

3-5. 組織部門(OU)の作成

3-5-1. 組織部門(OU)とは

この項目では、組織部門のよくあるパターンについて説明します。なお、管理の煩雑さを避けるため、組織部門はできるだけシンプルに作成することを推奨しています。

1. 役割ベース

ユーザーおよび端末の役割ごとに組織部門(OU)を作成します。教育委員会の ICT 管理者が、ユーザー / 端末権限の定義、ユーザーの追加・削除作業などを一括して行う場合に適しています。



2. 組織ベース

学校などの組織ごとに OU を作成します。各学校に、一部のユーザー権限設定およびユーザーの追加・削除作業などを委任する場合に適しています。



3-5. 組織部門(OU)の作成

3-5-2. 組織部門(OU)の作成



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「**組織部門**」をクリックします。



- 2 画面左上の **+** をクリックします。



- 3 「**組織部門の名称**」に組織部門名を入力します。
「親の組織部門」は変更せず、「作成」をクリックします。



- 4 トップ以下の各階層にカーソルを合わせ、「+」をクリックすると、該当の階層の下に組織部門が作成できます。

3-5. 組織部門(OU)の作成

3-5-2. 組織部門(OU)の作成



- 5 別の組織部門の配下に移動させるときは、移動させたい組織部門にカーソルをあわせ、 をクリックします。



- 6 移動させたい組織部門を選択し、「続行」をクリックすると選択した組織部門の配下に移動します。



- 7 組織部門名を変更したいときは、移動させたい組織部門にカーソルをあわせ、 をクリックします。

参照 URL: [組織部門の追加](#)

3-6. ユーザー アカウントの作成

3-6-1. 命名規則

ユーザー アカウントを作成する際によくあるアカウントの命名規則とそれぞれのメリット、デメリットについて説明します。

	命名パターン	例	備考
管理者	名字 + 名前 (+ 番号)	google-taro@ google-taro-1@	覚えやすい
	自治体コード+ admin + ランダム英字2文字	01admin.xx@	
教員	名字 + 名前 (+ 番号)	google-taro@ google-taro-1@	覚えやすい
	教員コード	XXXXX@	既存 AD との連携可
	教員コード + ランダム英字2文字	XXXXX.ab@	既存 AD との連携可
児童生徒	名字 + 名前 (+ 番号)	google-taro@ google-taro-1@	英字入力の考慮要。 自治体ポリシー上の個人名 取扱に考慮が必要なケースも
	入学年度 + 固有の識別番号	2000001@	小学校低学年でも入力が容易
	学校コード + 入学年度 + 連番	999-02-999@	転校時に変更あり
	入学年度 + 生徒コード + ランダム英字2文字	209999.xx@	既存 AD との連携可
	自治体コード+ 学校コード + 入学年度 + 生徒コード	001-001-20-9999@	進学や転校時に変更あり
	自治体コード+ 学校コード + 生徒英字1文字 + 連番	001-001-a-999@	
	接頭文字 + 生徒コード (学籍番号等)+ 乱数	s_9999_1234@	進学や転校時に変更あり

※ アルファベット、数字、ダッシュ(-)、アンダースコア(_)、アポストロフィ(')、ピリオド(.)を使用可能です。

※ 連続した複数のピリオド(.)、アクセント記号、アクセント付き文字、アンパサンド(&)、等号(=)、山カッコ(<、>)、
プラス記号(+)、カンマ(,)は使用できません。

※ ユーザー名の先頭または末尾に英数字以外の文字の使用も可能です(ピリオド(.)は不可)。また最大文字数は 64 文字です。

3-6. ユーザー アカウントの作成

3-6-2. 作成数の上限

Google Workspace for Education のアカウント作成数は、契約時の上限は 10,000 名に設定されています。10,000 名を超えてユーザーを作成する場合は、サポート窓口へお問い合わせの上、上限引き上げを依頼してください。

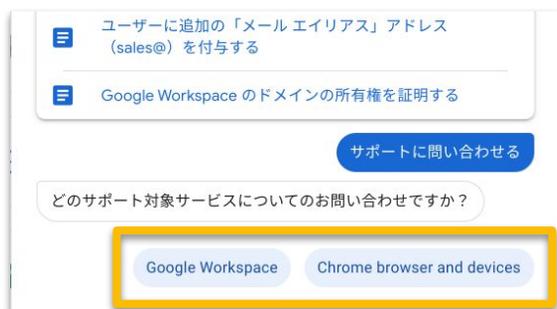
※ サポート窓口の問い合わせについては 以下を参照ください。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「サポート」をクリックします。



- 2 「サポートに問い合わせる」をクリックします。



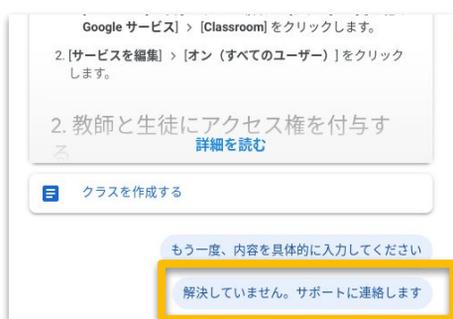
- 3 サポート対象サービスを選択します。

3-6. ユーザー アカウントの作成

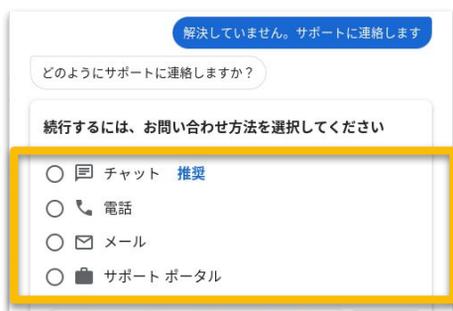
3-6-2. 作成数の上限



4 問い合わせの内容を記入します。



5 問い合わせ内容に関するヘルプページが表示されます。問い合わせが解決していない場合「**解決していません。サポートに連絡します**」をクリックします。



6 問い合わせ方法を選択します。

・チャット(推奨)

月 - 金の午前9時から午後6時まで日本語対応可能です。

・電話

24時間日本語対応です。管理コンソールから取得できる電話サポート用のPIN番号が必要です。

・メール

フォームを入力すると、Google Cloud サポートセンターにケースが登録されます。以降メールでサポートメンバーとやりとりいただけます。

・サポート ポータル

サポートとの過去のやり取りの確認や新しいリクエストの送信ができるGoogle Cloud サポートセンターをご利用いただけます。

3-6. ユーザー アカウントの作成

3-6-3. CSV での一括登録

ユーザー作成は、個別もしくは CSV での一括登録が可能です。ここでは、大量のユーザー作成に便利な CSV での一括登録方法について説明します。



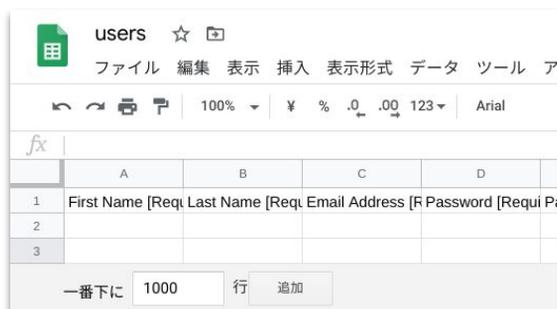
- 1 管理コンソール ダッシュボードの「ユーザー」をクリックします。



- 2 画面上の「ユーザーの一括更新」をクリックします。



- 3 ポップアップ画面上部の「空の CSV テンプレートをダウンロード」をクリックし、テンプレートをダウンロードします。



- 4 CSV の A 列(名)、B 列(姓)、C 列(メールアドレス)、D 列(パスワード)、E 列(組織部門)が必須項目です。

※ 不要な列は削除しても問題ありません。
 ※ Z 列のパスワードの変更は任意ですが、初回ログイン時に変更させる場合は「TRUE」、変更させない場合は「FALSE」とそれぞれ入力することをおすすめします。

3-6. ユーザー アカウントの作成

3-6-3. CSV での一括登録

／ F 列: 組織部門 (Org Unit Path) の入力について

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	First Name	Last Name	Email Address	Password	Password	Org Unit Path [Required]	New Primary	Record
2	太郎	山田	t-yamad	demo1234		/D市教育委員会		

- ・組織部門は、「/(半角スラッシュ)」を入力後、続けて組織部門名を入力します。トップの組織部門(ドメイン名)に追加する場合は、「/」のみを入力します。
- ・トップの組織から 2 階層以上下にユーザーを追加する場合には、以下のように入力します。



左の例の入力方法:

/D 市教育委員会 /D 市立あおい小学校
※スラッシュの前後にスペースは不要です。

参照 URL: [CSV ファイルから複数のユーザーを追加または更新する](#)

3-6-4. その他の登録

CSV での一括登録の他、大規模なユーザー アカウント作成には、以下のいずれかの方法で作成することも可能です。詳しくは、リンクをご確認ください。

1. **Microsoft® ActiveDirectory® 等の LDAP Directory をご利用の場合**
[Google Cloud Directory Sync](#) を使用して、既存の LDAP ディレクトリ内のユーザーデータと Google アカウントを同期する
2. **その他、柔軟なオプションを使用して作成したい場合**
[Admin SDK Directory API](#) を使用する

3-7. サービスの設定

3-7-1. Google Workspace for Education コアサービス一覧

Google Workspace for Education のコアサービスには以下があり、管理コンソール上で各サービスの有効化 / 無効化、詳細の設定を行うことができます。

	Google Chrome	世界中で利用される Web ブラウザ
	Gmail	世界中で利用される Web メールアプリ
	Google Classroom	課題の一元管理ができる授業支援アプリ
	Google ドライブ	共有と共同編集ができるコラボレーション ツール
	Google Meet	100 名同時に安全に遠隔で繋がれるビデオ通話アプリ
	Google Chat	トピックごとのチャットルームで会話ができるアプリ
	Google カレンダー	予定の作成・共有ができるスケジュール管理アプリ
	Google サイト	簡単に Web サイトを作成・共有できるアプリ
	Google Keep	Web 上で作成・共有できるデジタルメモアプリ
	Google Tasks	To Do リストを作成・管理できるアプリ
	Google Jamboard	手書きにも対応したデジタル ホワイトボード アプリ
	Google Groups	メーリング リストやトピックごとにフォーラムが作成できるアプリ
	Google Vault	Gmail やチャット記録のアーカイブや監査を実施できるアプリ

3-7. サービスの設定

3-7-2. サービスの設定

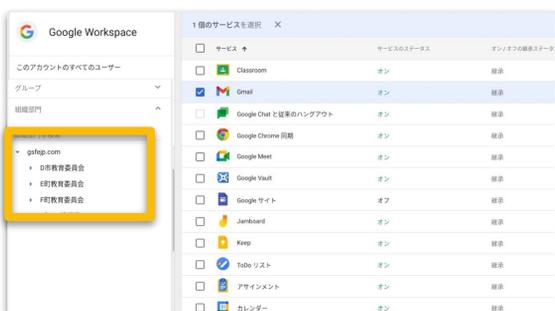
各サービスの設定は、組織部門（OU）ごとに一括で反映させることができます。この項目では、サービスの設定方法について説明します。



1 管理コンソール ダッシュボードの「**アプリ**」をクリックします。



2 画面左上の「**Google Workspace**」をクリックします。



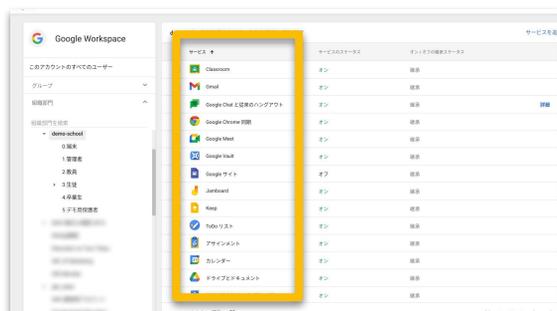
3 設定を変更したい組織部門を選択します。ドメイン下のユーザーすべてに反映させたい場合は、トップの組織部門を選択します。
※ 上位の組織部門で設定した内容は、下位の組織部門にも継承されます。



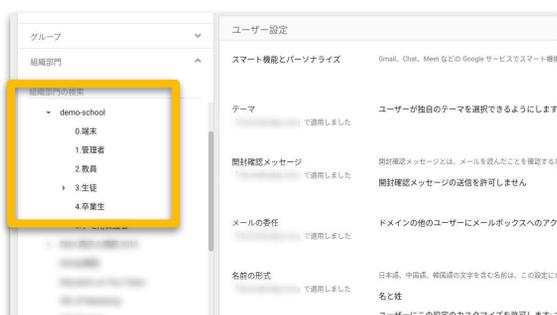
4 組織部門を選択後、設定を変更するアプリのチェックボックスにチェックを入れ、右上の「**オフ**」をクリックします。

3-7. サービスの設定

3-7-2. サービスの設定



1 各アプリ名をクリックすると、そのアプリの詳細設定を行うことができます。



2 各アプリの詳細設定によっては、ユーザーごとやグループ（※後述）ごとなど細かい単位で設定を反映させることもできます。

参照 URL: [Google Workspace ユーザー向けにサービスを有効または無効にする](#)

よくあるアプリごとでできる詳細設定について

アプリ	設定項目名	設定内容
Gmail	配信を制限	ドメイン外のユーザーとのメールの許可/ 禁止
Google Meet	ビデオ通話	ビデオ通話の主催を教師に限定する
Google Chat	外部とのチャット	ドメイン外のユーザーとのチャットの許可/ 禁止
Google ドライブ	外部との共有	ドメイン外のユーザーとの共有の許可/ 禁止
Google サイト	外部との共有	ドメイン外のユーザーとの共有の許可/ 禁止
Google Classroom	教師の権限	教師の権限を承認制にする
	保護者のアクセス	保護者に Google Classroom の情報へのアクセスの許可/ 禁止
	クラスのメンバーについて	ドメイン外のユーザーへのクラスへのアクセスの許可/ 禁止

3-8. 管理者の設定

3-8-1. 管理者の役割とは

管理コンソールでは、ユーザーに管理コンソール上の特定の役割を付与することができます。役割は、あらかじめ用意をしている以下の役割（システムロール）の他、自由に役割をカスタマイズすることも可能です。 ※ 契約時のアカウントに特権管理者の役割はあらかじめ付与されています。

役割種別	内容
特権管理者	<p>管理コンソール上のすべての設定・管理が可能 です。</p> <p>特権管理者だけができる操作もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者の権限を割り当て ・組織部門(OU)を作成・削除 ・削除したユーザーの復元やメールのログの確認
グループ管理者	<p>Google グループを作成・削除 したり、グループ内のメンバーを変更・削除したりすることができます。</p>
ユーザー管理者	<p>ユーザー アカウントに関するすべての管理(追加・削除・変更) 操作を行うことができます。</p>
ヘルプデスク管理者	<p>管理者以外の全ユーザーの パスワードを再設定 したり、アカウントの各情報・状況を確認することができます。(閲覧のみ)</p>
サービス管理者	<p>各アプリの設定変更や、有効化の範囲設定 などを行うことができます。</p>

✓ 特権管理者は限られたメンバーのみのアクセスに

特権管理者は、管理コンソール上のすべての設定・管理が可能です。組織内のすべての情報を閲覧・編集することができてしまうため、**特権管理者アカウントにアクセスができるメンバーは 2 人以上の限られた人数に限定**することを推奨します。

✓ ユーザーに紐付かないアカウントの検討

管理者の役割は組織部門ごとではなく、**ユーザーごとに付与**します。特定のユーザーに付与することも可能ですが、当該ユーザーの異動時には、その権限を別の方に付与し直す作業が発生します。そのため、ユーザーに紐付かないアカウントを用意することで、**ICT 管理担当の方の異動などの際にも権限を再付与する必要がなく**、運用の手間を省くことができます。

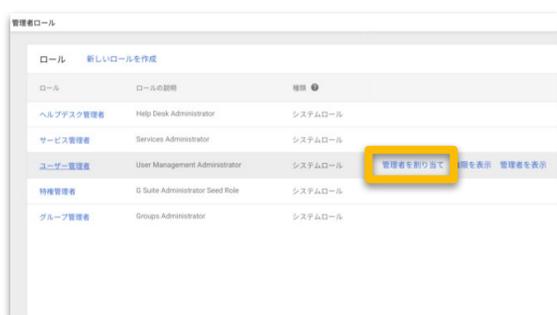
3-8. 管理者の設定

3-8-2. 管理者の役割の設定

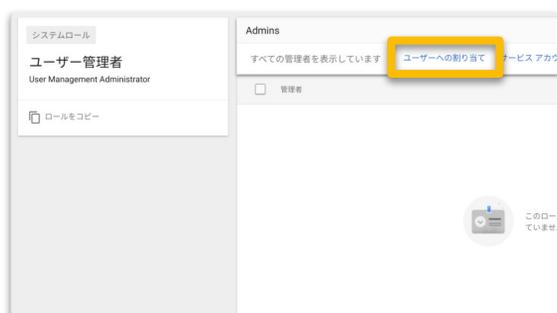
管理者の役割はユーザーごとに付与します。この項目ではその付与方法について説明します。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「**管理者ロール**」をクリックします。



- 2 あらかじめ用意された役割(システムロール)から付与する場合は、任意の役割名にカーソルを合わせ、「**管理者を割り当て**」をクリックします。



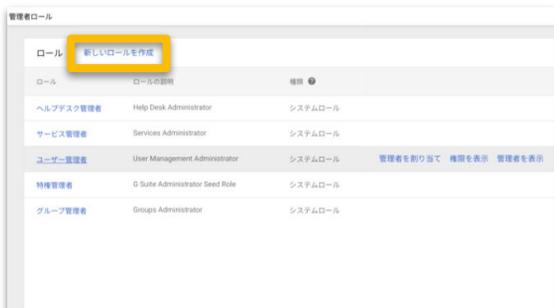
- 3 画面上部の「**ユーザーへの割り当て**」をクリックします。



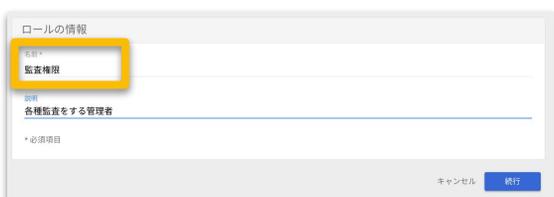
- 4 ユーザー名もしくはメールアドレスを入力し、「**ロールを割り当て**」をクリックします。

3-8. 管理者の設定

3-8-2. 管理者の役割の設定



5 新しくロール(役割)を作成する場合は、画面右上の「**新しいロールを作成**」をクリックします。



6 必須項目の役割名を入力し、「**続行**」をクリックします。



7 作成した役割に付与したい権限の横のチェックボックスにチェックを入れ、右下の「**続行**」をクリックします。



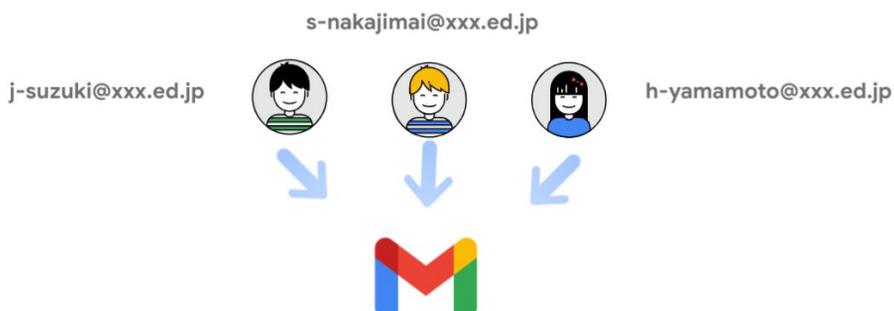
8 権限の内容に問題がなければ、右下の「**ロールを作成**」をクリックします。

参照 URL: [管理者の役割について](#)

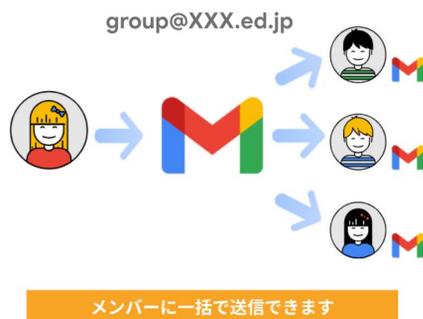
3-9. Google グループの設定

3-9-1. Google グループとは

Google グループは、メーリング リストのように複数のメンバーを追加できるメールアドレスです。任意の Google グループを作成し、そこにメンバーを追加することで様々な用途で利用することができます。



Google グループは、次のような用途で使用することができます。



3-9. Google グループの設定

3-9-2. Google グループ作成(管理コンソール)

この項目では、管理コンソール上での Google グループの作成方法について説明します。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「**グループ**」をクリックします。



- 2 画面上部の「**グループを作成**」をクリックします。



- 3 グループの詳細情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。



- 4 アクセスタイプを公開、チーム、通知のみ、制限付き、カスタムから選択し、画面右下の「**グループを作成**」をクリックします。

3-9. Google グループの設定

3-9-2. Google グループ作成(管理コンソール)



- 5 作成したグループにカーソルを合わせ「メンバーを管理」をクリックします。



- 6 画面左上の「+」にカーソルを合わせ「メンバーを追加」もしくは「メンバーを一括アップロード」を選択します。

各グループのアクセス設定の違い

用途	内容
公開	ドメイン内のすべてのユーザーに公開されます。
チーム	ドメイン内の特定のチームに公開されます。組織内の特定の部署またはチームで利用するグループを作成する場合は、この設定を選択します。
通知のみ	グループへの情報配信に使用します。たとえば、学校内・教育委員会からの情報を受け取るグループにこの設定を使用します。
制限付き	非公開情報や機密情報を共有する一部のメンバーの限定公開グループに使用します。
カスタム	カスタムで設定をする場合に選択します。

3-9. Google グループの設定

3-9-2. Google グループ作成(管理コンソール)

作成した Google グループへのユーザーの追加方法は、個別での追加と CSV での一括追加から選択できます。ここでは CSV での一括追加方法について説明します。



- 1 Google グループ作成時に、「ユーザーを一括でアップロード」を選択後、「CSV テンプレート」をクリックし、テンプレートをダウンロードします。

1	Group Email [Re: Member Email]	Member Type	Member Role
2	abc-teachers		
3	abc-teachers		
4	abc-teachers		
5	abc-teachers		
6	abc-teachers		
7	abc-teachers		
8	abc-teachers		
9	abc-teachers		
10	abc-teachers		

- 2 CSV の A 列(Google グループアドレス)、B 列(メンバーのメールアドレス)が必須項目です。
 - ・A 列には 2 行目と同じグループメールをコピーしてください。
 - ・B 列にはグループメールに登録するメンバーのメールアドレスを各行に入力してください。
 - ・C 列・D 列は空欄で問題ありません。



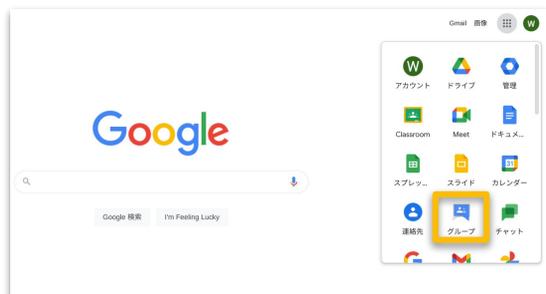
- 3 CSV データを更新後、CSV データを添付してアップロードしてください。

参照 URL: [グループの作成方法](#)

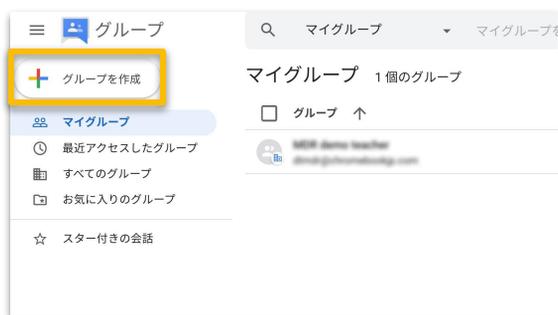
3-9. Google グループの設定

3-9-3. Google グループ作成 (Google Groups)

Google グループは、管理コンソール上から作成することもできますが、その際にはユーザーに管理者の役割を付与する(「3-7. 管理者の設定」参照)必要があります。Google Workspace for Education コアサービスの「ビジネス向け Google Groups」を有効化することで、一般ユーザーも Google グループの作成が可能になります。ここではその作成方法について説明します。



- 1 Chrome ブラウザを開き、画面右上のアプリランチャーから「**グループ**」をクリックします。



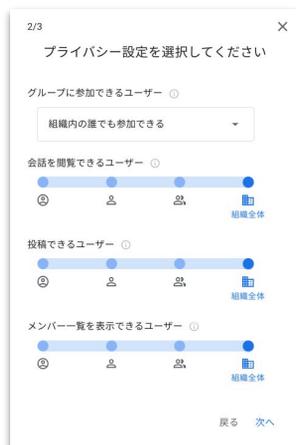
- 2 画面右上の「**グループを作成**」をクリックします。



- 3 グループ名、メールアドレスを入力し、「**次へ**」をクリックします。

3-9. Google グループの設定

3-9-3. Google グループ作成 (Google Groups)



2/3 プライバシー設定を選択してください

グループに参加できるユーザー

組織内の誰でも参加できる

会話を閲覧できるユーザー

投稿できるユーザー

メンバー一覧を表示できるユーザー

戻る 次へ

- 4 Google グループのプライバシー設定を選択し、「次へ」をクリックします。



3/3 メンバーを追加

グループメンバー

グループのマネージャー

グループのオーナー

Workshop研修用 (あなた)

デフォルトであなたがグループのオーナーになっています

ウェルカムメッセージ

0/1,000文字

登録

すべてのメール

メンバーを直接追加

グループにメンバーを直接追加します

戻る グループを作成

- 5 Google グループに参加するメンバーを追加し、「グループを作成」をクリックします。

3-9. Google グループの設定

3-9-3. Google グループ作成 (Google Groups)

グループの役割について

役割	オーナー	マネージャー	メンバー
グループメンバーの表示	○	○	○
グループからの退会	○	○	○
グループへのメッセージ送信	○	○	○
グループへのメンバー追加	○	○	
グループのメンバー削除	○	○	
グループメンバーの役割変更	○	○	
グループの設定変更	○	○	
グループの削除	○		
グループのオーナー権限の譲渡	○		

参照 URL: [グループの作成方法](#)

3-9-4. Google グループ作成 (GAS やアドオンでの一括作成)

Google グループは、個別や CSV での一括作成の他、GAS やアドオンを使って作成することもできます。詳しくは以下のリンクをご確認ください。

- [アドオンでの一括作成](#) (Ok Goldy を使用する場合)

4

Chromebook の構築

1

4-1. 組織部門の作成

2

4-2. 端末の登録(= キットイング)

3

4-3. 端末情報の更新(アセット ID など)

4

4-4. ネットワークの設定
(Chrome Education Upgrade 必須)

5

4-5. ユーザーとブラウザの設定

6

4-6. 端末の設定
(Chrome Education Upgrade 必須)

4-1. 組織部門の作成

Chromebook を端末の登録 (=キッティング) すると、端末は組織部門の一番上 (=ルート OU) に自動的に登録されます。

組織内のすべての端末を同一設定で利用する場合には新たに組織部門を作成する必要はありませんが、新たに端末用の組織部門を作成して管理することもできます。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「**組織部門**」をクリックします。



- 2 画面左上の **+** をクリックします。

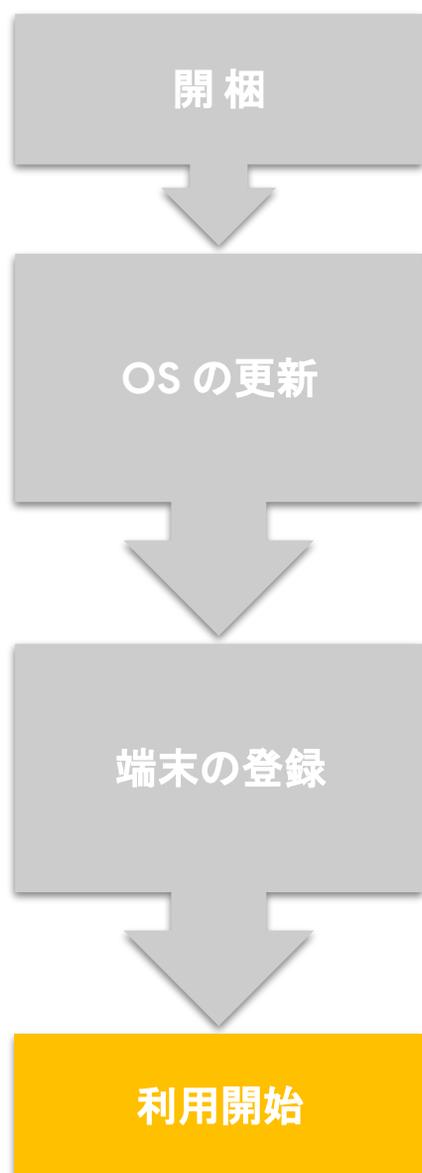


- 3 「**組織部門の名称**」に組織部門名を入力します。いずれかの組織部門の配下に作成する場合は、「**親の組織部門**」から上位の組織部門を選択し、「作成」をクリックします。

参照 URL: [組織部門の追加](#)

4-2. 端末の登録(=キッティング)

教育機関で Chromebook 端末を利用する際には、Chromebook 端末を管理コンソール上に登録する作業(=端末の登録)が必要となります。専門スキルが不要なシンプルな工程ですので、**教育委員会・学校様でもキッティング作業が実施可能**です。



次のいずれかの方法で更新します。

- a. Wi-Fi 経由で更新
- b. LTE 経由で更新 ※1
- c. USB メモリで更新 ※2

※1 OS 更新サイズが小さいため LTE でも OS 更新可能
※2 Wi-Fi の帯域が十分でない場合に利用

- ① ネットワークを選択
- ② 登録用の ID / パスワードの入力
- ③ 登録完了の確認

※ 資産管理番号を登録する場合もあります。

- ① 端末起動
- ② ログイン

※ ネットワーク設定やアプリケーション設定は全て自動的に同期、設定されます。

1 台あたり数分程度で端末の登録が完了

4-3. 端末情報の更新(アセット ID など)

端末の登録した端末は、管理コンソール上から端末の詳細情報を確認したり、アセット ID 等を追加することもできます。ここでは、その端末情報の更新方法について説明します。なお、[Chromebook Getter by AdminRemix](#) などのアドオンを利用すると、端末情報のエクスポート及び「組織部門・アセット ID・場所・ユーザー・メモ」の一括更新が可能です。



1 管理コンソール ダッシュボードの「**デバイス**」をクリックします。



2 「**Chrome デバイス**」をクリックします。



3 アセット ID を追加する端末を選択します。



4 「**アセット ID を追加**」を選択し、ID 情報を更新後、「**保存**」をクリックします。

参照 URL : [デバイス情報を表示、編集する](#)

4-4. ネットワークの設定

この項目では、ネットワークの設定について説明します。なお、本設定には Chrome Education Upgrade ライセンスの契約が必須となります。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「**デバイス**」をクリックします。



- 2 画面左側の「**ネットワーク**」をクリックします。



- 3 Wi-Fi 項目の「**Wi-Fi ネットワークを作成**」をクリックします。



- 4 プラットフォームへのアクセス項目で「**Chromebooks(デバイス別)**」にチェックを入れ右下の「**保存**」をクリックします。

※ 本設定を適用することで、ログイン前にネットワークが利用できるようになります。

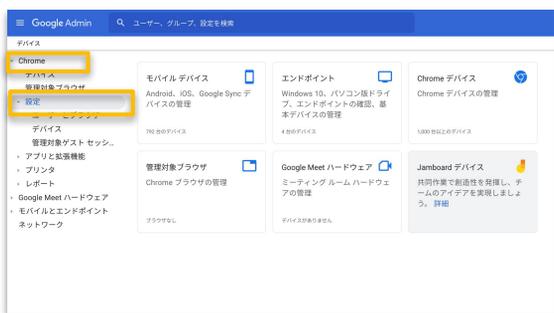
参照 URL: [管理対象デバイス用のネットワークの設定](#)

4-5. ユーザーとブラウザの設定

この項目では、ユーザーごとのブラウザの利用方法について設定することができます。※設定項目の一覧については本ガイド最後に記載



1 管理コンソール ダッシュボードの「**デバイス**」をクリックします。



2 画面左上の「**Chrome**」から、「**設定**」をクリックします。



3 「**ユーザーとブラウザ**」をクリックします。



4 画面左側に表示されている組織部門を選択したあと、概要の設定を更新します。更新後は、画面右上の「**保存**」をクリックします。

参照 URL: [ユーザーまたはブラウザに Chrome のポリシーを設定する](#)

4-6. 端末の設定

この項目では、Chromebook 端末の利用方法について設定することができます。※設定項目の一覧については本ガイド最後に記載



1 管理コンソール ダッシュボードの「**デバイス**」をクリックします。



2 画面左上の「**Chrome**」から「**設定**」をクリックします。



3 「**デバイス**」をクリックします。



4 画面左側に表示されている組織部門を選択したあと、概要の設定を更新します。更新後は、画面右上の「**保存**」をクリックします。

参照 URL: [Chrome デバイスのポリシーを設定する](#)

5

運用

1

5-1. 端末の運用

- 5-1-1. OS の更新
- 5-1-2. 故障時の対応
- 5-1-3. 紛失時の対応

2

5-2. サポート

3

5-3. アカウント関連

- 5-3-1. パスワード リセット
- 5-3-2. データ移行 (卒業時)
- 5-3-3. アカウント停止 (卒業時)
- 5-3-4. アカウント削除 (卒業時)

5-1. 端末の運用

5-1-1. OS の更新(管理コンソール上の OS の更新設定)

Chrome OS の更新は、管理コンソール上で自動更新・手動更新を設定することができます。ここでは、自動・手動の更新設定方法及び、それぞれの更新方法について説明します。



1 管理コンソール ダッシュボードの「**デバイス**」をクリックします。



2 画面左上の「**Chrome**」から「**設定**」をクリックします。



3 「**デバイス**」をクリックします。



4 デバイスの更新設定の項目から、「**アップデートを許可する**」か否かを選択し、画面右上の「**保存**」をクリックして適用させます。

参照 URL: [Chrome デバイスの更新を管理する](#)

5-1. 端末の運用

5-1-1. OS の更新(自動更新方法)

Chromebook では、OS の自動更新を許可している場合、Wi-Fi またはイーサネットに接続されている際に、アップデートの確認とダウンロードが自動的に行われます。

自動更新を完了する

1. Chromebook にソフトウェア アップデートがダウンロードされると、右下に通知が色付きで表示されます。
青: 更新は推奨です。
オレンジ: 更新は必須です。
2. [再起動して更新] を選択します。
3. Chromebook が再起動し、更新が行われます。

手動で更新を確認する

※ 下記作業は、電源を入れ、Wi-Fi に接続されている状態で行ってください。

1. Chromebook 右下の時刻を選択します。
2. 設定  を選択します。
3. 左パネルの下部にある [Chrome OS について] を選択します。
4. [アップデートを確認] を選択します。
5. ソフトウェア アップデートが見つかった場合は、自動的にダウンロードが開始されます。

5-1. 端末の運用

5-1-2. 故障時の対応

Chromebook を使用中に、正常に動作しない等の問題が発生した場合は、サポートページの以下をお試してください。

それでも問題が解決しない場合は、各メーカーにお問い合わせください。

1. [ハードウェアとシステムの問題を解決する](#)

上記では、以下の解決方法について記載があります。

□ ハードウェアの問題

- ・バッテリーが充電されない
- ・Bluetooth が動作しない
- ・カメラが動作しない
- ・モニターに接続できない
- ・キーボードが動作しない
- ・サウンドが機能しない
- ・タッチパッドが動作しない
- ・タッチスクリーンが動作しない

□ システムの問題

- ・「Chrome OS が存在しないか破損しています」
- ・Chromebook がクラッシュまたはフリーズする
- ・Chromebook の動作が遅い
- ・Chromebook の電源のオンとオフが繰り返される
- ・Chromebook の電源が入らない、充電されない
- ・システム アップデートでエラーが発生する
- ・システム アップデートがダウンロードされない

2. [Chromebook を復元する](#)

3. [Chromebook を初期状態にリセットする](#)

初期状態へのリセットをする際には、管理者へ連絡し、Chromebook データの消去と、職場または学校のネットワークへのデバイスの再登録を依頼してください。

4. [端末修理をメーカーに依頼する](#)

5-1. 端末の運用

5-1-3. 紛失時の対応

Chromebook を紛失した場合は、以下の方法をお試しください。

Chromebook を保護する

1. Chrome などのブラウザを開きます。
2. 他ユーザーの端末を使用する場合は、シークレット モードを使用します。
3. Google アカウントを開きます。
4. [セキュリティ] の [お使いのデバイス] で [デバイスを管理] を選択します。
5. 紛失したスマートフォン、タブレット、Chromebook を選択します。
6. デバイスが最後に使用された日時・検出された都市が表示されます。
7. [アカウント アクセス] の横の [ログアウト] を選択します。画面の手順に沿って、デバイスから Google アカウントと接続済みアプリへのアクセスを削除します。

なお、紛失した Chromebook で使用していたユーザー アカウントのパスワードは、変更の手順で変更してください。

Google アカウントのパスワードを変更する

1. Google アカウントを開きます。ログインが必要になることもあります。
2. [セキュリティ] で [Google へのログイン] を選択します。
3. [パスワード] を選択します。再度ログインが必要になる場合があります。
4. 新しいパスワード情報を入力して、[パスワードを変更] を選択します

端末を無効化する

1. 管理コンソール上から [デバイス] 次に [Chrome 管理] に移動します。
2. 画面上部のフィルタから無効にするデバイスの現在のステータスを選択します。
3. 無効にするデバイスの横にあるチェック ボックスをオンにします。
4. 画面上部で、 をクリックします。
5. [無効にする] をクリックします。

5-2. サポート

以下の手順でサポート窓口への問い合わせが可能です。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「サポート」をクリックします。



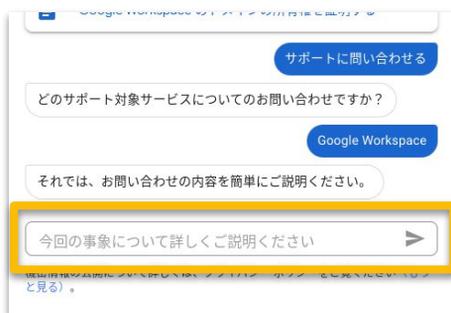
- 2 「サポートに問い合わせる」をクリックします。



- 3 サポート対象サービスを選択します。

5-2. サポート

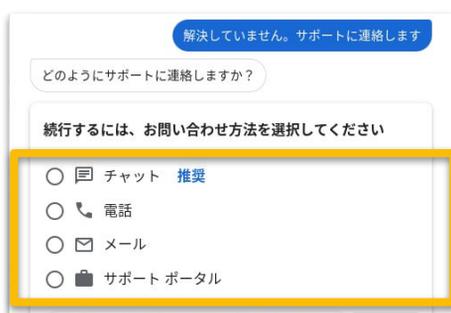
以下の手順でサポート窓口への問い合わせが可能です。



4 問い合わせの内容を記入します。



5 問い合わせ内容に関するヘルプページが表示されます。問い合わせが解決していない場合「**解決していません。サポートに連絡します**」をクリックします。



6 問い合わせ方法を選択します。

・チャット(推奨)

月 - 金の午前9時から午後6時まで日本語対応可能です。

・電話

24時間日本語対応です。管理コンソールから取得できる電話サポート用のPIN番号が必要です。

・メール

フォームを入力すると、Google Cloud サポートセンターにケースが登録されます。以降メールでサポートメンバーとやりとりいただけます。

・サポートポータル

サポートとの過去のやり取りの確認や新しいリクエストの送信ができるGoogle Cloud サポートセンターをご利用いただけます。

5-3. アカウント関連

5-3-1. パスワードリセット



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「ユーザー」をクリックします。



- 2 再設定をしたいユーザーにカーソルを合わせ、「パスワードを再設定」をクリックします。



- 3 パスワードを再設定し、「リセット」をクリックします。
※ ランダムなパスワードを自動生成するか、次回ログイン時にパスワードの変更を要求するかを選択することができます。

参照 URL: [ユーザーのパスワードを再設定する](#)

5-3. アカウント関連

5-3-2. データ移行

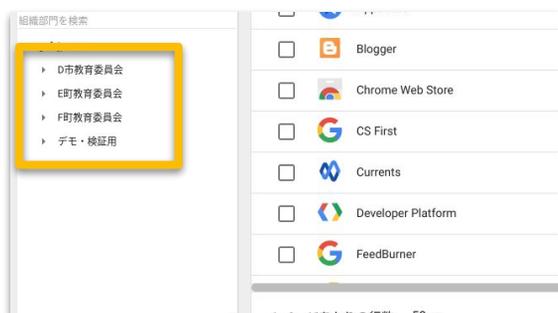
Google データ エクスポートのコンテンツ移行許可を設定することで、学校内のユーザーに自分のドキュメントやメールのコピーを別の Google アカウントに転送することを許可できます。本設定により、卒業する予定の生徒を対象に転送を有効にできます。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「**アプリ**」をクリックします。



- 2 「**その他の Google サービス**」をクリックします。



- 3 設定を許可したい組織部門を選択します。ドメイン下のユーザーすべてに反映させたい場合は、トップの組織部門を選択します。
※ 上位の組織部門で設定した内容は、下位の組織部門にも継承されます。



- 4 組織部門を選択後、「**Google データ エクスポート**」のチェックボックスにチェックを入れ、右上の「**オン**」をクリックします。

参照 URL:

[卒業予定の生徒にデータの転送を許可する](#)

5-3. アカウント関連

5-3-3. アカウント停止



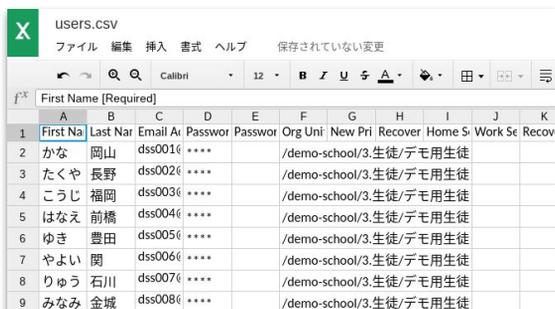
- 1 管理コンソール ダッシュボードの「ユーザー」をクリックします。



- 2 画面右上の「ユーザーの一括更新」をクリックします。



- 3 ポップアップ画面上部の「ユーザー情報を CSV ファイル形式でダウンロード」をクリックします。



- 4 CSV の AA 列 [New Status [Upload Only]] 列に「Suspended」と入力し、管理コンソール上に CSV ファイルをアップロードしてアカウント停止を完了します。

参照 URL: [ユーザーを一時的に停止する](#)

5-3. アカウント関連

5-3-4. アカウント削除

この項目では、ユーザー アカウント削除の手順について説明します。
 なお、以下は個別に削除する手順ですが、一括での削除を実行する場合は、[Ok Goldy](#) などのアドオンツールを利用します。



- 1 管理コンソール ダッシュボードの「ユーザー」をクリックします。



- 2 再設定をしたいユーザーにカーソルを合わせ、「その他」をクリックし、「ユーザーを削除」を選択します。



- 3 削除するユーザーの該当のアプリのデータを別のユーザーに譲渡する場合は、チェックボックスをクリックし、譲渡先ユーザーを選択した上で、「ユーザーを削除」をクリックします。
 ※ データを譲渡せずにそのまま削除することも可能です。
 ※ 削除から 20 日間は復元することが可能です。

参照 URL: [組織からユーザーを削除する](#)

6

参考資料

1

6-1. ユーザーとブラウザの設定項目一覧

2

6-2. 端末の設定項目一覧

3

6-3. Google Workspace コアサービス
設定例

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 1/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
全般	ユーザーセッションの最大の長さ	ユーザーセッションの継続時間を1分～1440分(24時間)までの値で管理ができます。
	カスタムアバター	アイコンのアバターをカスタムのアバターに変更できます。JPG形式で512KB以下の画像である必要があります。
	カスタムの壁紙	デスクトップの壁紙をカスタムの壁紙に変更できます。JPG形式で16MB以下の画像である必要があります。
ログイン設定	ブラウザのログイン設定	Chromeブラウザへのログイン時、ブラウザ情報をGoogleアカウントに同期し、ブックマーク、履歴、パスワード、その他の設定情報を連携できるかを指定します。
	アカウントのパターンでログインを制限する	ChromeブラウザのメインアカウントとするGoogleアカウントを正規表現で指定できます。指定がない場合、ユーザーはChromeブラウザのメインアカウントに任意のGoogleアカウントを設定できます。
	パスワード表示ボタンを表示する	ユーザーがパスワードを表示できるようにするボタンをログイン画面とロック画面に表示するかどうか指定します。
モバイル	Chrome Mobile (ベータ版)	サポートされているユーザー設定を、ユーザーのデバイス全体でポリシーと設定が同期されます。いずれのデバイスでも、管理対象アカウントでユーザーがChromeブラウザにログインすると設定が適用されます。
登録の管理	Microsoft® Active Directory®	[Active Directoryの管理を有効にする]を選択すると、Microsoft® Active Directory® (AD)または管理コンソールを使用してChromeデバイスを管理できます。(注 新規ユーザーの方には、ADを使用したChrome OS デバイス管理をご利用いただけません)
	デバイス管理モード	Chromeデバイスを管理する際に、Microsoft® Active Directory®または管理コンソールのどちらを使用するのかを指定します。
	デバイスの登録	Chromebookを、最上位の組織部門もしくは端末を使用するユーザーの組織部門に配置させることができます。
	登録時のアセットID	各端末のユーザー、シリアル番号、登録日などの情報をユーザーに指定することを許可させるかを選択できます。
	登録の権限	ユーザーに端末の登録やプロビジョニング解除後の再登録を許可するかを指定します。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 2/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
アプリの拡張機能	アプリと拡張機能	以下を一元管理することができます。 - アプリの許可、ブロック/ アプリの自動インストール - タスクバーへのアプリの固定/ おすすめアプリと拡張機能
	アプリの設定	アプリと拡張機能のその他の設定を行うことができます。
	タスク マネージャー	Chrome タスク マネージャーでのプロセスの終了をユーザーに許可させるかを指定します。
サイト分離	サイト分離	Chromebook で管理対象の Chrome ブラウザを使用しているユーザーに対してサイト分離を有効にすると、指定したウェブサイトと発行元を分離され、各サイトが専用のレンダリングプロセスで実行されます。これにより、データの盗用を防ぐためのセキュリティ対策が悪意のあるサイトによってバイパスされるのを一層強靱に防ぐことができます。
	サイト分離 (Android の Chrome)	Android デバイスで管理対象の Chrome ブラウザを使用しているユーザーに対してサイト分離を有効にすると、指定したウェブサイトと発行元を分離できます。
セキュリティ	パスワード マネージャー	パスワード マネージャーの使用により、パスワードを Chrome ブラウザに保存し、次回サイトへのログイン時にパスワードを自動入力できるかを指定します。
	ロック画面	デバイスでのロック画面のオンとオフを切り替えます。ロック画面を無効にすると、通常であればロック画面が有効になる状況でユーザーがログアウトされます。
	ロックのクイック解除	ユーザーが PIN や指紋などのロックのクイック解除モードを使用して端末のロック画面を解除できるかを指定します。
	PIN の自動送信	ロック画面とログイン画面で PIN の自動送信機能をするかを指定します。
	ロック画面でのメディアの再生	デバイスのロック中にユーザーがメディアを再生できるようにするかどうかを指定します。
	アイドル設定	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドル時間: スリープもしくはログアウトまでの時間 ・アイドル時の操作: スリープ/ ロック画面/ ログアウト ・カバーを閉じた際の操作: スリープ/ ログアウト ・スリープ時のロック画面: スリープ時のロックの許可
	シークレット モード	シークレット モードでブラウジングできるかを指定します。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 3/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
セキュリティ	ブラウザの履歴	ブラウザにユーザーの閲覧履歴を保存するかを指定します。
	ブラウザの履歴の削除	ユーザーが閲覧履歴やダウンロード履歴などの閲覧データを削除できるかどうかを指定します。
	一時的ログインモードを適用	一時的ログインモードでブラウジングするかを指定します。これにより、従業員が個人のPC や信頼できる共有端末で作業した場合、端末に閲覧情報が残る可能性を低減できます。
	オンライン失効チェック	Chrome デバイスでHTTPS 証明書のオンライン失効チェックが実行されます。
	位置情報	ユーザーの物理的な現在地の追跡をウェブサイトにも許可するかを設定します。Chrome ブラウザでは、物理的な現在地の追跡をデフォルトで許可または禁止するか、ウェブサイトから物理的な現在地が要求されるたびにユーザーに毎回確認するように指定できます。
	シングルサインオン (SSO) によるオンラインログインの頻度	SAML ベースの SSO アカウントに対してオンラインログインフローを適用する頻度を設定します。設定した期間が経過するとユーザーはログアウトされ、その都度 SAML ベースの SSO アカウントのオンラインログインフローに沿った操作を行う必要があります。
	シングルサインオン (SSO)	Chrome デバイスに対して SAML ベースの SSO を有効または無効にできます。
	TLS の RC4 暗号スイート	従来のサーバーでの必要に応じて、TLS で RC4 暗号スイートを一時的に有効または無効にできます。 ※ RC4 は安全ではないため、AES 暗号化をサポートするようにサーバーを再設定することをおすすめします。
	ローカルトラストアンカーの証明書	<ul style="list-style-type: none"> ローカルアンカーの一般名を使用したフォールバック Symantec 社の Legacy PKI インフラストラクチャ
	Certificate Transparency の許可リスト: URL	Certificate Transparency (証明書の透明性) の要件が証明書に適用されない URL を指定します。
	Certificate Transparency の許可リスト: CA	証明書チェーン内の証明書に、指定された subjectPublicKeyInfo ハッシュが使用されている場合、証明書の透明性の要件は証明書に適用されません。
	Certificate Transparency の許可リスト: 以前の CA	証明書チェーンに含まれる証明書が以前の認証局 (CA) によって発行されたもので、指定された subjectPublicKeyInfo ハッシュがこの証明書に使用されている場合、証明書の透明性の要件は証明書に適用されません。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 4/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
セキュリティ	インストールしたCA 証明書のユーザーによる管理	証明書マネージャーを使用して、認証局(CA)証明書の読み込み、編集、削除を実行できるかを指定します。
	インストールしたクライアント証明書のユーザー管理	クライアント証明書の管理をユーザーに許可するかを指定します。
	CPU タスク スケジューラ	パフォーマンスを高めるために、Intel® Hyper-Threading Technology® を最適化するかを指定します。
	レンダラコードの整合性チェックの有効	有効にすることで、Chrome ブラウザのレンダラプロセス内に悪質な疑いのある不明なコードの読み込みを防ぎます。
	アンビエント認証	Chrome 80 以降でサポートされ、ポリシーが未設定の場合、すべてのセッション(標準、シークレットモード、ゲストの各セッション)でアンビエント認証が有効になります。
	入力された認証情報に対する漏洩の検出の有効	Chrome ブラウザと、Chrome OS バージョン 79 以降のデバイスでは、Chrome でユーザー名とパスワードの漏洩をチェックするかを指定できます。
	Chrome クリーンアップ	望ましくないソフトウェアを対象としたシステムスキャンを、Chrome クリーンアップツールで定期的に行うかを指定します。
	サードパーティのコード	サードパーティソフトウェアに Chrome のプロセスへの実行コードの挿入を許可するかどうかを指定します。
	音声のサンドボックス化	重要なシステムリソースやその他のプログラムから音声処理を隔離して、サンドボックス化するかを指定します。サンドボックス化により、システムセキュリティが強化されます。
	サポートされていないシステム警告	サポートされていないPCやOSで Chrome を使用する場合に、警告をユーザーに表示するかを指定します。
	高度な保護機能プログラム	高度な保護機能プログラムに登録済みのユーザーを、オンライン攻撃(アカウントへの不正アクセスや有害なダウンロードなど)から保護するかを指定できます。
	保護されていないオリジンに対する制限を無視する	保護されていないオリジンに対する制限を適用しないオリジン(URL)またはホスト名のパターンを指定します。
コマンドラインフラグ	危険性のあるコマンドラインフラグ付きで Chrome を起動した場合にセキュリティ警告を表示するかを指定します。	

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 5/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
セキュリティ	ポップアップのインタラクション	target を blank に設定して開いたポップアップに、そのページとのインタラクションを許可するかを指定します。
	セキュリティトークンの削除	ユーザーがセキュリティトークンを削除した場合の操作を以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> なし ユーザーをログアウトする 現在のセッションをロックする
リモートアクセス	リモートアクセスクライアント	アクセスを許可するリモートアクセスクライアントのドメイン名を指定し、ユーザーがこの設定を変更できないようにします。ホストデバイスに接続できるのは、指定したドメインのクライアントのみになります。
	ファイアウォールトラバーサル	リモートクライアントからユーザーのデバイスへの接続が試行される際、NAT (STUN) サーバーとリレー (TURN) サーバーのセッショントラバーサルユーティリティを有効にすることができます。
セッションの設定	トレイにログアウトボタンを表示する	シェルフにログアウトボタンを明示的に表示する場合に選択します。
Kerberos	Kerberos チケット	Chrome デバイスで Kerberos チケットを使用し、Kerberos 認証対応の内部リソースに対してシングルサインオン (SSO) を有効にするか指定します。
ネットワーク	プロキシモード	Chrome OS をインターネットに接続する方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> プロキシを使用しない 常にプロキシを自動検出する 常に下に指定したプロキシを使用する 常に下に指定したプロキシの自動設定を使用する
	キャプティブポータルでプロキシを無視する	Chrome OS がキャプティブポータル認証用に構成されたプロキシサーバーをバイパスできるかを指定します。
	サポートされる認証スキーム	サポートされている HTTP 認証スキームを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ベーシック / ダイジェスト / NTLM / ネゴシエーション - 最も安全なオプション
	HTTP の基本認証を許可する	Chrome ブラウザではデフォルトで、保護されていない HTTP 接続経由の基本認証チャレンジが許可されています [基本認証スキームには HTTPS を必須とする] を選択した場合、Chrome ブラウザで HTTPS を経由した基本認証チャレンジのみが許可されます。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 6/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ネットワーク	NTLMv2 認証	デフォルトで有効になっているNTLMv2 認証の設定します。下位互換性の問題がない限り、認証のセキュリティが低下するため、無効にしないことをおすすめします。
	SSLレコード分割 ※ Chrome デバイスのみ	有効にすると、Chrome で SSL レコード分割が可能になります。
	有効な SSL の最小バージョン	ユーザーに許可するTLS (Transport Layer Security) の最小バージョンを指定します。
	SSL エラーのオーバーライド	ユーザーがSSLに関する警告を無視してページに移動できるようにするかを指定します。
	データ圧縮プロキシ	Google がホストするプロキシサーバーを使ってウェブサイトのコンテンツを最適化することで、モバイルデバイスでのデータ使用量を減らし、モバイルウェブのブラウジング速度を上げることができます。
	WebRTC UDP ポート	ユーザーからのWebRTC 接続に使用するUDP ポートの範囲を指定できます。ポートの範囲は1024~65535 です。
	ローカル IP を表示する WebRTC ICE 候補の URL	ローカル IP を表示するWebRTC ICE 候補の URL を追加できます。
	QUIC プロトコル	Chrome での QUIC (Quick UDP Internet Connections) プロトコルの使用を許可できます。
	DNS-over-HTTPS	各クエリについて、HTTPS プロトコルを介したりリモートでのドメインネームシステム (DNS) 解決のデフォルトモードを以下から指定して管理します。 <ul style="list-style-type: none"> •DNS-over-HTTPS を無効にする •DNS-over-HTTPS を有効にする (安全でないフォールバックあり) •DNS-over-HTTPS を有効にする (安全でないフォールバックなし)
	組み込みの DNS クライアント	組み込みの DNS クライアントを Chrome ブラウザで使用するかどうかを指定します。
	CORS の以前のモード	Chrome ブラウザで以前の CORS プロトコルを使用できるかどうかを指定します。
	CORS の緩和	クロスオリジンリソースシェアリング (CORS) を使用すると、予期しないクロスオリジンネットワークアクセスから組織を保護する一方で、他のドメインのリソースにアクセスできます。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 7/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ネットワーク	常時接続VPN	AndroidとChrome OSで、ユーザーがデバイスを起動したらすぐにユーザートラフィックの処理を行うAndroid VPN アプリを指定します。
	統合認証サーバー	統合 Windows 認証 (IWA) を許可するサーバーを指定します。
	Kerberos 委任サーバー	統合 Windows 認証 (IWA) のために Chrome の委任先として使用可能なサーバーを指定します。
	Kerberos のチケットの委任	Kerberos チケットを委任するために、キー配布センター (KDC) のポリシーを適用するかを指定します。
	Kerberos のサービスプリンシパル名	Kerberos のサービスプリンシパル名 (SPN) の生成に使用される名前のソースを指定します。
	Kerberos の SPN ポート	生成された Kerberos のサービスプリンシパル名 (SPN) に標準以外のポートを含めるかどうかを指定します。
	クロスオリジン認証	ページ上のサードパーティのサブコンテンツに対し HTTP 基本認証のダイアログボックスのポップアップ表示を許可するかを指定します。
	デフォルトの参照ポリシー	Chrome のデフォルトの参照ポリシーを指定します。
	ユーザーエージェントクライアントのヒント	ユーザーのブラウザと環境に関する情報を含むリクエストを Chrome ブラウザでアクティブに作成できるかどうかを指定します。
	Signed HTTP Exchange (SXG)	デフォルトでは、[Signed HTTP Exchange として配信されるウェブコンテンツを許可する] が選択されており、コンテンツの整合性と帰属情報を維持しながら、コンテンツの移植や他者による再配布を安全に行えるようになっています。
	グローバルスコープの HTTP 認証のキャッシュ	HTTP サーバー認証の認証情報を使用して、各プロファイルにつきグローバルキャッシュを1つだけ設定できます。
	ローカルトラストアンカーでオンライン OCSP / CRL チェックを必須にする	ローカルにインストール済みの CA 証明書によって署名された確認済みのサーバー証明書に対して、Chrome が常に失効確認を行うかどうかを指定します。
	プロキシあたりの接続数の上限	プロキシサーバーの同時接続数の上限を7以上100未満の間で指定できます。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 8/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ネットワーク	GSSAPI ライブラリ名	HTTP 認証に使用するGSSAPI(Generic Security Service Application Program Interface)ライブラリを指定します。
	HSTS ポリシー バイパスリスト	HTTP Strict Transport Security(HSTS)ポリシーチェックを適用しないホスト名のリストを指定できます。
	HTTP ネゴシエーション認証用のアカウントの種類	HTTP ネゴシエーション認証対応のAndroid 認証アプリが提供するアカウントの種類を指定します(例 Kerberos 認証)。
	DNS 傍受チェックを有効にする	DNS 傍受チェックを実行するかどうかを指定します。
	WebRTC での従来の TLS / DTLS へのダウングレード	Web Real-Time Communications(WebRTC)での従来のTLS(Transport Layer Security)とDatagram Transport Layer Security(DTLS)のダウングレードを許可できます。このポリシーは一時的なもので、Google Chrome の今後のバージョンでは削除される予定です。Google Chrome(Linux、Mac、Windows)のバージョン 87 以降および Google Chrome OS のバージョン 87 以降でサポートされています。
	WPAD 最適化	Google Chrome での WPAD(ウェブプロキシ自動検出)の最適化を有効または無効にします。
Android アプリ	ネットワーク認証用のログイン認証情報	Chrome OS バージョン 89 以降のデバイスの場合、NTLM 認証で保護された管理対象プロキシの認証にユーザー名とパスワードを使用するかを指定します。
	Android のバックアップと復元サービスを制御する	ユーザーがAndroid アプリのコンテンツ、データ、設定をGoogle アカウントにバックアップできるようにします。ユーザーは別のChromebook にログインしてAndroid アプリのデータを復元できます。
	Google 位置情報サービス	ユーザーの物理的な現在地の追跡をAndroid アプリに許可するかを設定します。
	アカウント管理	managed Google Play で明示的に許可されているAndroid アプリ以外も利用できるように、予備のアカウント(個人用のGmail アカウントなど)を追加できます。※Chrome 75 以前
	証明書の同期	Chrome OS の認証局(CA)証明書をAndroid アプリに対して同期し、使用できるようにするかを指定できます。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 9/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
起動	ホームボタン	ツールバーにホームボタンを表示するかを指定します。
	ホームページ	ツールバーのホームボタンをクリックしたときに表示される内容を管理します。
	新しいタブページ	新しいタブページのURLを指定し、ユーザーがこのURLを変更できないように設定できます。
	起動時に読み込むページ	ユーザーがChromebookを起動したときに読み込む追加ページのURLをリストに指定できます。
	デフォルトのブラウザの確認	デフォルトのブラウザの決定をユーザーに許可するかを指定します。
	ブラウザ起動時のプロファイル選択画面の表示	ブラウザ起動時のプロファイル選択画面の状態(有効、無効、強制)を指定します。
設定のインポート	自動入力データのインポート	Chrome ブラウザを初めて起動したときに、デフォルトブラウザから自動入力データを読み込めるようにします。
	ブックマークのインポート	Chrome ブラウザを初めて起動したときに、デフォルトブラウザからブックマークを読み込めるようにします。
	閲覧履歴のインポート	Chrome ブラウザを初めて起動したときに、デフォルトブラウザから閲覧履歴を読み込めるようにします。
	ホームページのインポート	Chrome ブラウザを初めて起動したときに、デフォルトブラウザからホームページの設定を読み込めるようにします。
	保存したパスワードのインポート	Chrome ブラウザを初めて起動したときに、デフォルトブラウザから保存したパスワードを読み込めるようにします。
	検索エンジンのインポート	Chrome ブラウザを初めて起動したときに、デフォルトブラウザから検索エンジンの設定を読み込めるようにします。
コンテンツ	セーフサーチと制限付きモード	<ul style="list-style-type: none"> •Google セーフサーチ ユーザーの検索結果から不適切なコンテンツを除外するセーフサーチ機能を有効または無効にできます。 •YouTube の制限付きモード YouTube の制限付きモードを有効にするかを選択します。
	スクリーンショット	組織内のユーザーがChrome デバイスでスクリーンショットを撮影できるかを管理します。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 10/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
コンテンツ	画面の動画キャプチャ	タブ、ウィンドウ、または画面全体をライブ配信するためのプロンプト表示をウェブページに許可するかを指定します。
	クライアント証明書	Chrome がクライアント証明書を自動的に選択するサイトのURL パターンのリストをJSON 文字列で指定できます。
	セキュリティキーの認証	端末がセキュリティキーからの認証証明書をリクエストしたときに、確認メッセージを表示しないURL とドメインを指定します。
	3D コンテンツ	ブラウザのウェブページでWebGL API とプラグインの使用を許可するかどうかを管理します。
	Cookie	サイト設定やプロフィール情報といったブラウジング情報の保存をウェブサイトに許可するかどうかを設定します。
	サードパーティのCookie のブロック	ユーザーによる決定を許可するか、サードパーティのCookie を許可するかを指定できます。
	従来の SameSite Cookie のデフォルトの動作	デベロッパーが Same Site 設定を使用して、サイト間のリクエストでブラウザがCookie を送信しないようにすることができます。
	一部のサイトのCookie に従来の SameSite の動作を適用する	デベロッパーが SameSite 設定を使用して、サイト間のリクエストでブラウザがCookie を送信しないようにすることができます。
	画像	Web サイトでの画像の表示を許可するかを設定します。
	JavaScript	Web サイトでのJavaScript の実行を許可するかを設定します。
	JavaScript IntensiveWakeUp Throttling	バックグラウンドで開いていて5分以上使用されていないタブに対してJavaScript タイマーを停止します。
	通知	Web サイトにデスクトップ通知の表示を許可するかを設定します。
	自動再生動画	音声付き動画コンテンツの自動再生(ユーザーの同意不要)を許可するページをURL パターンのリストで指定します。
Flash	Adobe® Flash® Player® などのプラグインの実行をウェブサイトに許可するかどうかを設定します。(Chrome バージョン 88 をもって、Flash Player のサポートは終了しています。)	

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 11/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
コンテンツ	有効 / 無効なプラグイン	Chrome で常に有効にするプラグイン (Java など) のリストを指定できます。
	プラグインファインダー	ユーザーの Chrome デバイスに必要なプラグインを自動的に検索してインストールできます。
	プラグインの承認	セキュリティを脅かす可能性があるプラグインの実行にユーザーの許可を求めるかを設定します。
	古いプラグイン	古いプラグインの実行をするための許可の設定をします。
	PDF ファイル	Google Chrome で PDF ファイルを開く方法を指定します。
	ダウンロードしたファイルを自動的に開く	ダウンロード後に自動的に開くファイル形式のリストを指定します。
	ポップアップ	ウェブサイトでポップアップ表示を許可するかを設定します。
	アンロード中のポップアップ	アンロード中のポップアップの表示をウェブサイトに許可するかどうかを指定します。
	URL のブロック	Chrome ブラウザのユーザーが特定の URL にアクセスできないようにします。
	Google ドライブの同期	Chrome デバイスで Google ドライブを同期できるかを、管理者が設定します。ドライブの同期を有効または無効にすることも、ユーザーが選択できるようにすることも可能です。
	モバイル ネットワークを介した Google ドライブの同期	Chrome デバイスで、モバイルネットワークを介して Google ドライブを同期できるかを設定できます。
	キャスト	Chromecast デバイスを使用しているユーザーに、Chrome タブのキャストを許可するかを指定します。
	混合コンテンツの厳格な取り扱い	Chrome ブラウザと Chrome OS デバイスで、安全でない HTTP 音声、動画、画像の混合コンテンツをどのように扱うかを指定します。(Chrome バージョン 80~83)
	安全でないコンテンツの例外的な使用を管理する	ブロック可能な混合コンテンツの読み込みをユーザーが追加できるかを指定する

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 12/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
コンテンツ	指定サイトで安全でないコンテンツを許可する	アクティブな混合コンテンツ(スクリプトやframe など)の表示を許可するページのリストを指定します。
	指定サイトで安全でないコンテンツをブロックする	アクティブな混合コンテンツ(スクリプトやframe など)の表示を許可しないページのリストを指定します。
	Chrome 84 以前の Web Components v0 API を再有効化する	Web Components v0 API を最有効化するかを指定します。(このポリシーは Chrome 84 で廃止)
	ページ終了中の同期 XHR リクエスト	ページの終了中に同期XMLHttpRequest(XHR)リクエストの送信をページに許可するかどうかを指定できます。(このポリシーは Chrome 88 で廃止)
	ネイティブウィンドウオクルージョン	ウィンドウオクルージョンの検出を許可するかを指定します。
	従来のフォームコントロールを使用する	すべてのサイトで最新のフォームコントロール要素を使用するかを指定します。(このポリシーはChrome 84 で廃止)
	URL キーによる匿名化データの収集を有効にする	URL キーによる匿名化データの収集をユーザーに許可するかを指定します。
	Web Bluetooth API	ウェブサイトがWeb Bluetooth API を使用して Bluetooth デバイスへのアクセスをリクエストできるかを指定します。
	外部プロトコルに関するダイアログに[常に開く]チェックボックスを表示する	外部プロトコルの呼び出しに関する確認プロンプトに[常に開く]チェックボックスを表示するかどうかを制御します。
印刷	バックフォワードキャッシュ	バックフォワードキャッシュ機能を有効化するかの設定をします。
	印刷	印刷機能を有効または無効にすることができます。
	デフォルトの印刷プレビュー	システムのデフォルトプリンタを Chrome のデフォルトプリンタとして使用するか、ユーザーのデフォルトのプリンタを設定するかを指定できます。
	ローカルプリンタの管理	Chrome デバイスへのローカルプリンタの追加をユーザーに許可するかブロックするかを切り替えることができます。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 13/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
印刷	デフォルトのカラー印刷モード	デフォルトでカラー印刷にするかモノクロ印刷にするかを指定します。
	カラー印刷モードを制限	ユーザーにカラー印刷またはモノクロ印刷を強制します。
	デフォルトの印刷面	ユーザーが用紙の両面に印刷できるかどうかを指定します。
	印刷面を制限	組み込みの両面印刷機能があるプリンタで片面印刷モードまたは両面印刷モードをユーザーに強制します。
	背景グラフィック印刷のデフォルト設定	デフォルトで背景のグラフィックを印刷するかどうかを指定します。
	背景のグラフィックの印刷の制限	ユーザーに背景のグラフィックの印刷を強制または禁止できます。
	ネイティブの印刷ジョブの情報	ユーザーアカウントとファイル名を印刷ジョブに送信するかを指定できます。
	印刷ジョブの履歴の保持期間	完了した印刷ジョブのメタデータをChrome デバイスに保存する期間を指定します。
	印刷ジョブの履歴の削除	印刷管理アプリを使用するか閲覧履歴を削除して、印刷ジョブの履歴を削除できます。(Chrome OS デバイス)
	PIN 印刷モードを制限	PIN 印刷 / PIN を使用しない印刷をユーザーに強制します。
	デフォルトのPIN 印刷モード	PIN 印刷のデフォルト設定を指定します。
	最大シート数	1回の印刷ジョブでユーザーが印刷できる用紙の最大枚数を指定します。
	デフォルトの印刷ページサイズ	デフォルトのページサイズを指定します。
	ヘッダーとフッターの印刷	ユーザーにヘッダーとフッターの印刷を強制または禁止できます。
	ブロックするプリンタの種類	特定のプリンタの種類や出力先での印刷をブロックすることができます。
印刷のラスターサイズモード	PostScript に対応していないプリンタを使用して印刷する場合に必要なことがある印刷ジョブのラスターサイズの設定をします。(Microsoft Windows のみ)	

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 14/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ユーザーエクスペリエンス	管理対象のブックマーク	モバイル デバイスなど、あらゆるプラットフォームの Chrome にブックマークのリストを送信し、ユーザーの利便性を高めることができます。
	ブックマークバー	ユーザーにブックマークを表示するかを指定します。
	シェルフの位置	ユーザーの Chrome デバイスでのアプリの行(シェルフ)の位置を指定します。
	シェルフの自動非表示	ユーザーの Chrome デバイスでのアプリの行(シェルフ)を非表示にするかどうかを指定します。
	ブックマークの編集	ユーザーが各自の Chrome ブックマークバーのアイテムを追加、編集、削除できるようにします。
	ブックマークバーのアプリのショートカット	ユーザーのブックマークバーにアプリのショートカットを表示するかを指定します。
	ダウンロード先	Chrome デバイスでのデフォルトのダウンロード先を設定し、その場所をユーザーが変更できるかどうかを指定します。
	ダウンロード先の確認	ダウンロードする前に、各ファイルの保存場所をユーザーに確認するかを指定します。
	スペルチェックサービス	Chrome でスペルチェックを有効または無効に設定することも、ユーザーが選択できるように設定することもできます。
	Google 翻訳	Chrome で Google 翻訳を使用するかを設定できます。
	代替エラーページ	Chrome ブラウザがウェブアドレスに接続できない場合に、代わりに方法を記載したページを表示するかを指定します。
	デベロッパーツール	[ツール] メニューに [デベロッパーツール] オプションを表示するかを指定します。
	フォームの自動入力	自動入力機能を使用してユーザーがオンラインフォームを簡単に入力できるようにするかを指定します。
	お支払い方法	保存されているユーザーのお支払い方法の有無をウェブサイトが確認することを許可するかを指定します。
絵文字候補	ユーザーが Chrome デバイスに入力する際の絵文字候補の表示を有効または無効にできます。	

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 15/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ユーザー エクスペリエンス	DNS プリフェッチ	表示されたウェブページのすべてのリンクのIP アドレス照会を行い、リンクをクリックした際の読み込み速度が速くなるDNS プリフェッチを有効にするか、またはユーザーが自由に設定できるかを指定します。
	ネットワーク予測	Chrome でネットワークの動作を予測できるようにするかを指定します。
	プロファイルの追加	ユーザーがChrome ブラウザに新しいプロファイルを追加できるかを指定します。
	マルチログインアクセス	ユーザーがマルチログインアクセスをできるかを指定します。
	予備のアカウントにログインする	ユーザーがデバイスにログインした後、ブラウザウィンドウと Google Play でアカウントを切り替えることをユーザーに許可します。
	ブラウザのゲストモード	Chrome ブラウザにゲストとしてログインすることをユーザーに許可するかを指定します。
	デスクトップ画面統合 (ベータ版)	ユーザーが複数のモニターやテレビで同じウィンドウを表示できるようにするかを指定します。
	WebRTC イベントログの収集	ユーザーがウェブアプリケーションでWebRTC イベントログを生成、収集できるかを指定します。
	システム機能無効化	Chrome デバイスで無効にするシステム機能を指定します。
	恐竜ゲーム	デバイスオフライン時にChrome ブラウザまたはChrome OS デバイスで恐竜ゲームをプレイできるかを指定します。
	以前インストールしたアプリのおすすめ	ユーザーが他のデバイスに以前にインストールしたアプリをおすすめとしてランチャーに表示するかを指定します。
	おすすめコンテンツの表示	おすすめコンテンツの表示を無効にするかを指定します。
	アドレスバー内のURL	ユーザーに対してアドレスバーにウェブページの完全なURL が表示されるかを指定します。(Chrome 86 以降)
クリップボードの共有	Chrome 同期が有効な場合に、ログインしているユーザーが Chrome デスクトップとAndroid デバイス間でテキストをコピーして貼り付けることができるかを指定します。	
全画面モード	適切な権限のあるユーザー、アプリ、拡張機能で全画面モードを使用できるかを指定します。	

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 16/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ユーザー エクスペリエンス	プロモーション用コンテンツ	Chrome ブラウザでタブ全体にサービス情報を表示するかを指定します。
	初回実行時のウィンドウの最大化	初めて Chrome を実行するときに常に最初の Chrome ウィンドウを最大化するかを指定します。(Chrome OS デバイス)
	おすすめメディアを有効にする	パーソナライズされたメディアのおすすめを表示するか指定します。
	ファイル選択ダイアログ	ファイルを開いて選択するためのダイアログボックスをユーザーが Chrome で開くことを許可します。
	ユーザーからのフィードバックを許可する	ユーザーが Google にフィードバックを送信できるようにするかを指定します。
	タップして検索	「タップして検索」機能の有効または無効の指定をします。
	ツールバー上のブラウザの試験運用版機能アイコン	ユーザーがツールバーのアイコンから試験運用版のブラウザ機能を使用できるかを指定します。
接続済みのデバイス	Smart Lock	Smart Lock を許可するかを指定します。
	インスタントテザリング	Google スマートフォンからインスタントテザリングを使用して、デバイスとモバイルデータ通信を共有できます。
	メッセージ	ユーザーはスマートフォンと Chrome OS デバイスとの間で SMS メッセージを同期するように設定できます。
	Click-to-Call	ユーザーがログインしているときに、Chrome OS デバイスから Android デバイスに電話番号を送信できるようにするかを指定します。
ユーザー補助	ユーザー補助機能のショートカット	ユーザー補助機能キーボードショートカットを無効にするかを設定できます。
	ChromeVox(音声フィードバック)	音声フィードバックの有効/無効を指定します。
	選択して読み上げ	選択して読み上げ機能の有効/無効を指定します。
	高コントラスト	高コントラストの有効/無効を指定します。
	拡大鏡	拡大鏡の有効/無効や拡大鏡のタイプ指定します。
	固定キー	固定キーの有効/無効を指定します。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 17/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ユーザー補助	画面キーボード	画面キーボードの有効/無効を指定します。
	音声入力	音声入力の有効/無効を指定します。
	キーボードフォーカスによるハイライト表示	キーボードフォーカスによるハイライト表示の有効/無効を指定します。
	カーソルのハイライト表示	カーソルのハイライト表示の有効/無効を指定します。
	自動クリック	自動クリックの有効/無効を指定します。
	大きいカーソル	大きいカーソルの有効/無効を指定します。
	カーソルのハイライト表示	カーソルのハイライト表示の有効/無効を指定します。
	メインのマウスボタン	メインのマウスボタンの設定を指定します。
	モノラル音声	モノラル音声の有効/無効を指定します。
	画像の説明	ウェブ上のラベルの付いていない画像(代替テキストのない画像など)の説明の取得を指定します。
電源とシャットダウン	wake lock を許可する	電源管理でwake lock を許可するかを指定します。
アドレスバーの検索プロバイダ	検索候補	ユーザーのウェブアドレスや検索キーワードの入力に役立つ予測サービスを有効または無効にできます。
	アドレスバーの検索プロバイダ	デフォルトの検索プロバイダの名前を指定します。
ハードウェア	外部ストレージデバイス	組織内のユーザーがChromebook を使用して、USB フラッシュドライブ、外部ハードドライブ、光学式ストレージ、セキュア デジタル (SD) カード、その他のメモリーカードなどの外部ドライブをマウントできるかを制御します。書き込みが不可の読み取り専用を選択することもできます。
	WebUSB API	接続済み USB デバイスへのアクセスをユーザーにリクエストできるサイトやリクエストできないサイトを指定できます。
	オーディオ入力	Chrome デバイスの内蔵マイクのオーディオ入力にウェブサイトからアクセスするための設定を組織内のユーザーに許可するかを制御します。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 18/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ハードウェア	オーディオ入力が許可された URL	音声キャプチャデバイスへのアクセスが許可される URL を指定します。
	音声出力	組織内のユーザーが Chrome デバイスで音を再生できるかを制御します。
	ビデオ入力	ウェブサイトが Chrome デバイスの内蔵ウェブカメラにアクセスできるかを指定します。
	ビデオ入力に許可された URL	動画キャプチャデバイスへのアクセスが許可される URL を指定します。
	GPU	端末に対して有効化するかを指定します。
	キーボード	キーボードの一番上の列のキーの動作を指定します。
	Serial port API	シリアルポートへのアクセスをユーザーにリクエストできるサイトやリクエストできないサイトを指定できます。
	プライバシー画面	プライバシー画面の設定をユーザーに許可するかを指定します。
	センサー	センサー（モーションセンサーや光センサーなど）へのアクセスと使用をウェブサイトに許可するかを指定します。
ユーザーの確認	確認済みモード	認証済みアクセスで検証ブートを求めるかを指定できます。
管理対象ブラウザ	クラウドレポート	Chrome ブラウザのクラウドレポート機能を管理します。
Chrome の セーフブラウジング	セーフブラウジング	ユーザーに対して Google セーフブラウジングを有効にするかを指定します。
	セーフブラウジングの改善に協力する	危険なアプリやサイトを検出するために、拡張レポートを有効にしてシステム情報やページのコンテンツを Google に送信するかを指定します。
	セーフブラウジングが許可されているドメイン	セーフブラウジングで信頼する URL を指定します。
	ダウンロードの制限	ユーザーが不正なソフトウェアや感染ファイルなどの危険なファイルをダウンロードできないようにします。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 19/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
Chrome の セーフブラウジ ング	セーフブラウジングの警告の無視を無効にする	ユーザーがセーフブラウジングの警告を無視し、偽のサイトや危険なサイトにアクセスしたり、有害なファイルをダウンロードしたりできるかどうかを指定します。
	パスワードアラート	危険なウェブサイト、または組織の許可リストに登録されていないウェブサイトで、ユーザーのパスワードの再利用を禁止するかを指定します。
	SafeSites URL フィルタ	SafeSites URL フィルタを有効または無効にできます。
	偽ドメインの警告を表示しないドメインを指定する	偽 URL の警告を表示しないサイトを指定できます。
	煩わしい広告を含むサイト	煩わしい広告を含むサイトで広告が表示されないようにブロックできます。
Chrome の更新	コンポーネントの更新	Chrome ブラウザのコンポーネントを自動更新するかを指定します。
	再起動通知	再起動通知を表示するかを指定します。
	自動更新のチェックを停止する	Chrome ブラウザの更新の自動チェックを行わない時間帯(毎日)を指定します。
	自動更新のチェック間隔	自動更新のチェック間隔を指定します。
	ダウンロードURL クラスのオーバーライド	更新ペイロードのキャッシュフレンドリーな URL の提供を試みるように設定することができます。これにより、帯域幅が削減され、応答時間が改善されます。
	Chrome ブラウザの更新	新しいバージョンの Chrome ブラウザがリリースされた際にデバイスを自動更新するかを指定します。
	ユーザーデータのスナップショット制限	緊急時のロールバックに備えて Chrome ブラウザで保持するユーザーデータのスナップショットの数を指定します。
従来のブラウザのサポート	従来のブラウザのサポート	ユーザーが Microsoft® Internet Explorer® などの別のブラウザで URL を開くことができるかを指定します。
	代替ブラウザ起動までの待機時間	代替ブラウザを開くまでの待機時間(秒)を指定します。

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 20/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
従来のブラウザのサポート	Internet Explorer のサイトリストを使用する	Internet Explorer のサイトリストを使用して、Chrome ブラウザまたは Internet Explorer で URL を開くことを制御することを許可します。
	従来のブラウザのサポートのサイトリスト	代替ブラウザで開くウェブサイトの URL リストが記載された XML ファイルの URL を指定します。
	どちらのブラウザでも開くウェブサイト URL のリスト	ブラウザの切り替えを行わないウェブサイトの URL のリストが記載された XML ファイルの URL を指定します。
	代替ブラウザで開くウェブサイト	代替ブラウザで開くウェブサイトの URL のリストを指定します。
	どちらのブラウザでも開くウェブサイト	ブラウザの切り替えを行わないウェブサイトの URL のリストを指定します。
	代替ブラウザのパラメータ	代替ブラウザの実行可能ファイルに渡すパラメータを指定できます。
	代替ブラウザのパス	代替ブラウザとして使用するプログラムを指定できます。
	Chrome のパラメータ ※ Windows のみ	代替ブラウザからの復帰時に、Chrome ブラウザの実行可能ファイルに渡すパラメータを指定します。
	Chrome のパス ※ Windows のみ	代替ブラウザからの復帰時に起動する Chrome ブラウザの実行可能ファイルを指定します。
	Chrome の最後のタブは開いたままにする	ウィンドウ内の最後のタブが代替ブラウザに切り替わった後に Chrome ブラウザを閉じるかを指定します。
ネットワークファイル共有の設定	NTLM 認証	ネットワークファイル共有機能で SMB マウントの認証プロトコルとして NTLM を使用するかを指定します。
	NetBIOS の検出	ネットワークファイル共有機能で NetBIOS 名のクエリリクエストプロトコルを使用してネットワーク上の共有を検出するかを指定します。
	ネットワークファイル共有を許可	ユーザーにネットワークファイル共有機能の使用を許可するかを管理できます。
	事前設定されたネットワークファイル共有	事前設定されたネットワークファイル共有の項目は次の通りです。 URL / モード / プルダウン / 事前マウント

ユーザーとブラウザの設定項目一覧 21/21

カテゴリ	設定項目名	設定内容
仮想マシン (VM) とデベロッパー	コマンドラインアクセス	ユーザーがコマンドライン (CLI) にアクセスして仮想マシン (VM) を管理できるかを指定します。
	ポート転送	仮想マシン (VM) コンテナへのポート転送の設定をユーザーに許可するかどうかを指定します。
	信頼できない提供元の Android アプリ	管理者は各ユーザーに対して、信頼できない提供元からの Android アプリの使用を許可するかを指定できます。
Parallels Desktop	Parallels Desktop	Parallels Desktop の使用の許可を指定します。
	Parallels Desktop の Windows 画像	Parallels® Desktop の使用前に、ユーザーが Chromebook にダウンロードする Microsoft® Windows® 画像の URL と Windows 画像ファイルの SHA-256 ハッシュを指定します。
	必要なディスク容量	Parallels® Desktop の実行に必要なディスク容量をギガバイト単位で指定します。
	診断情報	Parallels との診断情報の共有を有効または無効にします。
その他の設定	統計情報の報告	Chrome ブラウザから使用統計情報と障害関連のデータを Google に送信するかを指定します。
	ログインユーザーに対する Chrome 管理	ユーザーが任意のデバイスの Chrome に自分の Google アカウントでログインする場合、管理コンソールで設定したユーザーレベルの Chrome ポリシーを適用するかを指定します。
	Chrome ブラウザのメモリ制限	Chrome ブラウザの 1 回のセッションで使用できるメモリの上限を設定できます。
	ディスクキャッシュディレクトリ	ディスクキャッシュディレクトリを指定します。
	ディスクキャッシュサイズ	ディスクキャッシュサイズを指定します。
	バックグラウンドモード	Chrome ブラウザが閉じられてもバックグラウンドアプリの実行を続行するかを指定します。
	ポリシー取得の遅延	デバイス管理サービスからポリシーの無効化の通知を受け取ってから新しいポリシーを取得するまでの遅延時間の上限 (ミリ秒単位) を指定できます。

参照 URL: [ユーザーまたはブラウザに Chrome のポリシーを設定する](#)

端末の設定項目一覧 1/6

カテゴリ	設定項目名	設定内容
登録とアクセス	自動的に再登録	ワイプしたChrome デバイスを、アカウントに自動的に再登録するかどうかを指定します。
	Powerwash	ユーザーは必要に応じてChromebook を出荷時の状態に戻すことができます。
	確認済みアクセス	クライアントが実行するChrome OS に変更がなく、OS がポリシーに準拠していることを示す証拠をウェブサービスがリクエストできるようにします。
	確認済みモード	認証済みアクセスで検証ブートを求めるかを指定します。
	無効になっているデバイスの返却手順	紛失または盗難により無効になっているデバイスの画面に表示するカスタムテキストを指定します。
	統合型の FIDO 二要素認証	ユーザーがTitan M セキュリティチップ搭載デバイスで2 要素認証 (2FA) を使用できるかを指定します。
ログイン設定	ゲストモード	管理対象のChrome デバイスでゲストブラウジングを許可するかを指定します。
	ログインの制限	Chrome OS デバイスにログイン可能なユーザーを管理できます。
	ドメインのオートコンプリート	ユーザーのログインページに表示するドメイン名を選択できます。ユーザーがログインするときにユーザー名の@[ドメイン名].com の部分を入力する必要がなくなります。
	ログイン画面	Chrome デバイスのログイン画面に、これまでにそのデバイスにログインしたことのあるユーザーの名前と写真を表示するかどうかを指定します。
	デバイスの管理外時間	Chrome OS を搭載している管理対象デバイスにゲストブラウジングとログインの制限設定が適用されていない場合、週ベースのスケジュールを設定できます。
	デバイスの壁紙画像	ログイン画面のデフォルトの壁紙を独自の壁紙に変更できます。16 MB までのJPG 形式の画像をアップロードできます。
	ユーザーデータ	登録済みのChromebook デバイスからユーザーがログアウトするたびに、ローカルに保存されている設定とユーザーデータをすべて削除するかを指定します。
	シングルサインオン (SSO) ID プロバイダのリダイレクト	※端末がSAML SSO が設定されている必要があります。シングルサインオンユーザーが最初にメールアドレスを入力しなくてもSAML ID プロバイダのページを直接表示できるようにするには、この設定を有効にします。

端末の設定項目一覧 2/6

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ログイン設定	シングルサインオン Cookie の動作	※端末が SAML SSO が設定されている必要があります。SSO のユーザーが、今後 Chromebook にログインするときに、同じ ID プロバイダを利用する内部ウェブサイトやクラウドサービスにログインできるようにするには、SAML SSO Cookie を有効にします。
	シングルサインオンによるカメラのアクセスの許可	※端末が SAML SSO が設定されている必要があります。このポリシーを有効にすると、ユーザーの代わりにユーザーのカメラへのアクセスをサードパーティに許可することになります。
	シングルサインオンのクライアント証明書	※端末が SAML SSO が設定されている必要があります。シングルサインオン (SSO) サイトのクライアント証明書を管理できます。
	アクセシビリティコントロール	ログイン画面のユーザー補助設定を管理できます。
	ログイン言語	Chrome デバイスのログイン画面に表示される言語を指定します。
	ログイン画面のキーボード	Chrome デバイスのログイン画面で使用できるキーボードレイアウトを指定します。
	ログイン画面のシステム情報	ユーザーがログイン画面にシステム情報を表示できるかを指定します。
	ログイン画面上のプライバシー画面	ログイン画面でプライバシー画面を常に有効または有効にするかを指定します。
	パスワード入力用の数字キーボードの表示	タッチスクリーンディスプレイを搭載している Chrome デバイスのログイン画面とロック画面に、パスワードを入力するための数字キーボードを表示するかを指定します。
ユーザーログイン画面の補助機能	音声フィードバック	音声フィードバックの有効/無効を指定します。
	選択して読み上げ	選択して読み上げ機能の有効/無効を指定します。
	高コントラスト	高コントラストの有効/無効を指定します。
	拡大鏡	拡大鏡の有効/無効を指定します。
	固定キー	固定キーの有効/無効を指定します。
	画面キーボード	画面キーボードの有効/無効を指定します。
	音声入力	音声入力の有効/無効を指定します。

／ 端末の設定項目一覧 3/6

カテゴリ	設定項目名	設定内容
ログイン画面の ユーザー補助機能	キーボードフォーカスによるハイライト表示	キーボードフォーカスによるハイライト表示の有効/無効を指定します。
	カーソルのハイライト表示	カーソルのハイライト表示の有効/無効を指定します。
	自動クリック有効化	自動クリックの有効/無効を指定します。
	大きいカーソル	大きいカーソルの有効/無効を指定します。
	カーソルのハイライト表示	カーソルのハイライト表示の有効/無効を指定します。
	メインのマウスボタン	メインのマウスボタンの設定を指定します。
	モノラル音声	モノラル音声の有効/無効を指定します。
	ユーザー補助機能のショートカット	ユーザーの補助機能のショートカットの有効/無効を指定します。
デバイスの 更新設定	自動更新の設定	新しいバージョンのChrome OS がリリースされた際にChrome デバイスを自動更新するかどうかを指定できます。
	アプリで更新を管理	特定のアプリに対して、デバイスのChrome OS バージョンの管理を許可することができます。
	キオスクで更新を管理	特定のキオスクアプリに対して、デバイスのChrome OS のバージョン管理を許可することで、デバイスのChrome OS がアプリで指定されたバージョンより新しいバージョンに更新されるのを防止できます。
	リリースチャンネル	リリースチャンネルを切り替えることで、ユーザーがChrome の最新機能をテストできるようにします。
	更新版のダウンロード	Chrome デバイスがHTTP またはHTTPS 経由でChrome OS のアップデートをダウンロードするかを指定します。
	計画的な更新	デバイスが更新を確認する日時を指定できます。

端末の設定項目一覧 4/6

カテゴリ	設定項目名	設定内容
キオスクの設定	管理対象ゲストセッション	Chrome デバイスを管理対象ゲストセッションとして設定することができます。
	キオスクのデバイスステータスのアラート配信	Chrome キオスクデバイスの電源がオフになっているときにアラートを受け取るかを指定できます。
	キオスクのデバイスステータスのアラートの送信先(連絡先情報)	Chrome キオスクデバイスに関するステータスの最新情報を取得する連絡先情報の設定をします。
	URL のブロック	Chrome ブラウザのユーザーが特定のURL にアクセスできないようにします。
ユーザーとデバイスをレポート	デバイスに関するレポート	ドメインの登録済みChrome デバイスから、ファームウェア、Chrome とプラットフォームのバージョン、起動モードといった現在のデバイスの状態を報告するかを指定します。
	利用していないデバイスに関する通知	ドメインで利用されていないデバイスに関するレポートがメールで届きます。
	匿名で統計情報をレポート	システムやブラウザのプロセスでエラーが発生したときにChrome デバイスから Google に使用統計情報や障害レポートを送信するかを指定します。
	デバイスのシステムログのアップロード	デバイスのシステムログのアップロードを有効化または無効化できます。
	デバイスステータスレポートのアップロード間隔	Chrome OS がデバイスのステータスをアップロードする頻度を分単位で指定します。
ディスプレイの設定	画面の設定	デバイスのディスプレイの解像度とスケーリングファクタを設定します。
電源とシャットダウン	電源管理	Chrome デバイスにログイン画面が表示されている状態のとき、指定時間の経過後にスリープ状態にするか、シャットダウンするか、またはログイン画面を表示したままにするかを指定します。
	スケジュールされた再起動	デバイスを再起動するまでの日数を指定できます。 ※ログイン画面が表示されているキオスクデバイスのみ。
	シャットダウンを許可する	ユーザーがシャットダウンアイコンまたは物理的な電源ボタンを使用してデバイスの電源をオフにできるようにするかを指定します。

端末の設定項目一覧 5/6

カテゴリ	設定項目名	設定内容
電源とシャットダウン	消費電力のピークシフト管理	電力使用ピーク時のAC電源の使用量を最小限に抑える電力のピークシフト管理を有効または無効に指定します。
	メインバッテリー充電の設定	メインバッテリーの充電モードを設定できます。
	高度な充電モード	高度な充電モードを有効または無効に指定します。
	AC電源接続時に起動	AC電源接続時の起動を有効または無効に指定します。
	USB Powershare	USB Powershare を有効または無効にしています。
その他の設定	デバイスのネットワークホスト名テンプレート	DHCP リクエストとともにDHCP サーバーに渡すホスト名を指定できます。
	タイムゾーン	ユーザーのデバイスに設定するタイムゾーンを指定します。
	モバイルデータローミング	Chrome デバイスのユーザーが、別の携帯通信会社が管理するモバイルネットワークを使用して接続できるようにするかを指定します。
	着脱可能なUSBの許可リスト	Citrix Receiver などのアプリケーションから直接アクセスできるUSBデバイスのリストを指定できます。
	Bluetooth	デバイスでBluetoothを有効または無効にできます。
	許可されているBluetoothサービス	Chrome OS デバイスの接続が許可されているBluetoothサービスを一覧表示します。
	デバイスの帯域幅の調整	デバイスレベルでの帯域幅の使用量を管理します。
	TPM ファームウェアの更新	端末へのTPM ファームウェアの更新インストールをユーザーに許可するかを指定できます。
	仮想マシン	Chrome OS デバイス上で仮想マシンを実行することをユーザーに許可するかを指定します。
	認証機能を実装したプロキシ経由のトラフィック	認証機能を実装したインターネットプロキシサーバーをシステムトラフィックが経由できるかを指定します。
	MACアドレスのパススルー	ドッキングステーションをChromebookに接続するときに、ドッキングステーションで使用するMACアドレスを選択できます。

／ 端末の設定項目一覧 6/6

カテゴリ	設定項目名	設定内容
その他の設定	Dell SupportAssist	Dell SupportAssist プログラムを有効にして設定できます。
	ログイン画面への Imprivata の統合	ユーザーがユーザー名とパスワードを入力する代わりに、バッジをタップすることでChrome デバイスにログインできるかを指定します。
	システムクロックの形式	ログイン画面およびChrome デバイスの管理対象ゲストセッションに表示されるクロック形式を指定します。
	アプリと拡張機能の キャッシュサイズ	1台のデバイスで複数のユーザーがインストールする場合に、アプリや拡張機能のキャッシュに使用できるサイズをバイト単位で指定します。
	ハードウェアプロファイル	ハードウェアプロファイルをGoogle サーバーからダウンロードすることを許可するかを指定します。
	Chrome OS の登録特典を利用する	企業向けデバイスのユーザーに対して、Chrome OS の登録特典の利用を許可するかどうかを指定できます。
	ディスク容量が少ない場合の通知	ディスク容量が少ない場合の通知を有効または無効にすることができます。

参照 URL: [Chrome デバイスのポリシーを設定する](#)

Google Workspace コアサービス設定例 1/4

Google Workspace for Education のコアサービス、端末と Chrome ブラウザの設定について、下記に設定例の一例をご紹介します。

あくまで一例ですので、各自治体・学校のポリシーに沿って、適宜設定を適用しましょう。

カテゴリ	設定	設定例
ディレクトリの設定	連絡先の共有	連絡先の共有を無効にする
	ディレクトリの公開設定	誰にも公開しない
ドライブと共有の設定	外部との共有	オフにする
	アクセスチェッカー	登録ユーザーまたは<ドメイン>
	コンテンツの配布	誰にも許可しない
	共有ドライブの作成	無効にする
Google Classroom の設定	Google Classroom の作成	確認済みのみ
	API アクセス	有効にする**

Google Workspace コアサービス設定例 2/4

	設定	設定例
	Google Chrome Sync	有効にする
	デバイスのポリシー名	設定例
	デバイス無効化の手順	[適切なメッセージと連絡先情報を入力する]
	リリース チャンネル	Stable チャンネルを適用する
	ゲストモードの許可	ゲストモードを無効にする
	ログイン制限	[*@<国名>.education]
	ドメインのオートコンプリート	ドメインを使用して次のように入力する: [<国名>.education]
	自動的に再登録	自動的に再登録する
	ユーザーのポリシー名	設定例
	Android アプリケーション - アカウントの管理	[アカウントの追加を無効にする] チェックボックスをオンにする
	Smart Lock	Smart Lock for Chrome を許可しない
	タスク マネージャ	ユーザーがタスク マネージャを使用してプロセスを終了できないようにする
	サイト分離	すべてのウェブサイトに対してサイト分離を有効にする
	アイドル設定	2 分
	アイドル時の操作	スリープ
	スリープ時の画面のロック	画面をロックする
	シークレット モード	シークレット モードを無効にする
	ホストドメインへのリモートアクセス	[<ドメイン名>.com]
	セーフサーチと制限付きモード	セーフサーチと制限付き YouTube を常に使用する
	URL のブロック	[必要に応じ定義する、または「*」を指定してすべてをブロックする]
	デベロッパー ツール	許可しない
	セーフブラウジング	常に有効にする
	ダウンロードの制限	危険なダウンロードをブロックする
	セーフブラウジングの警告回避の無効化	回避を許可しない
	ネットワークを経由したファイル共有の許可	無効にする
	外部ストレージ デバイス	外部ストレージ デバイスを許可しない
	シングル サインオン	SAML ベースのシングル サインオンを有効にする
	シングル サインオンの再ログインの頻度	1 日～4 週間

[Chrome の設定](#)

Google Workspace コアサービス設定例 3/4

カテゴリ	設定	設定例
メールの設定	テーマ	無効にする
	ユーザーの開封確認	無効にする
	Labs	無効にする
	高度な Labs	無効にする
	情報保護モード	無効にする
	オフライン Gmail	オンにする
	配信を制限	<[ドメイン名].education>
Google Chat と従来の Hangouts Chats の設定	クライアント	Chat を優先
	招待状の自動承諾	オフにする
	チャットの履歴設定	オンにする ユーザーが変更できないようにする
	外部チャット	オフにする
	外部へのステータスの表示	オフにする
	外部ユーザー参加のチャットルーム	オフにする
	Bot と Webhook	無効にする
Google Meet の設定	電話通信	無効にする
	クライアントログのアップロード	有効にする
	デフォルトの動画の品質	デフォルトではトップレベルに設定= 自動的に調整 All-Students グループに対して低帯域幅に設定する
	ビデオ通話	デフォルトではトップレベルに設定= 最上位の組織部門で無効にする All-Teachers グループに対して有効にする All-Admin グループに対して有効にする
	電話番号の提供	無効にする
	録画とストリーム	最上位の組織部門に対して無効にする 主なグループに対して有効にする

Google Workspace コアサービス設定例 4/4

カテゴリ	設定	設定例
カレンダーの設定	ビデオ会議の自動追加	無効にする
	2次共有	予定の有無のみ
	削除済みユーザーの今後の予定を通知なしでキャンセルする	有効にする
Google サイトの設定	サイトの作成 (新しい Google サイト)	最上位の組織部門で無効にする 教師と管理者のグループに対して有効にする
	Google サイト (以前の Google サイト)	デフォルトで無効、非表示
	サイトの共有 (以前の Google サイト)	閉鎖する
Vault およびデータ保持に関するポリシー	デフォルトの保持ポリシー	全ユーザーのすべてのサービスで18 か月間保持する

Appendix

□ Google for Education Japan YouTube チャンネル

Google for Education Japan の YouTube チャンネルでは、管理コンソールのチュートリアル動画も用意しております。各動画 1～2 分にまとまっておりますので、本ガイドブックと合わせてご活用ください。

動画は[こちら](#) もしくは以下の QR コードからアクセスください。



□ Google Workspace for Education 管理者向けヘルプページ

管理コンソールに関する、管理者向けのヘルプページは [こちら](#) を参照ください。